

Continuous Growth with Sustainable Superior Profits

アンリツ株式会社

2021年2月



東証第1部 : 6754
<https://www.anritsu.com>



Anritsu
envision : ensure

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

I. 中期経営計画 GLP2020 と事業戦略

1. 経営戦略の基本方針
2. 事業概要
3. 中長期の事業戦略の基本方針
4. Beyond2020に向けて始動

II. T&M 事業

1. T&M:利益改善目標
2. T&M:計測市場トレンドと事業機会
3. 産業別テストソリューション
4. Network Reshaping Test Solutions

III. PQA 事業

IV-1. 財務戦略

IV-2. 配当方針

IV-3. 企業理念とサステナビリティ方針

IV-4. コーポレートガバナンス体制

IV-5. 先端技術研究所の紹介

V. 2021年3月期第3四半期 連結決算概要

I . 中期経営計画 GLP2020と事業戦略

I - 1 . 経営戦略の基本方針

- ✓ 『利益ある持続的成長』路線を徹底する
- ✓ 2020VISION/GLP2020の実現に全力で取り組む

* GLP2020 Plan = FY2018~FY2020



Global Market Leader になる

- アンリツらしい価値創造
- ワールドクラスの強靱な利益体質の実現

事業創発で新事業を生み出す

- 新しい分野でアンリツの先進性を発揮

I - 2 . 事業概要

T&M事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場 : 5 G, LTE
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2020年3月期 実績 (連結) : 1,070億円

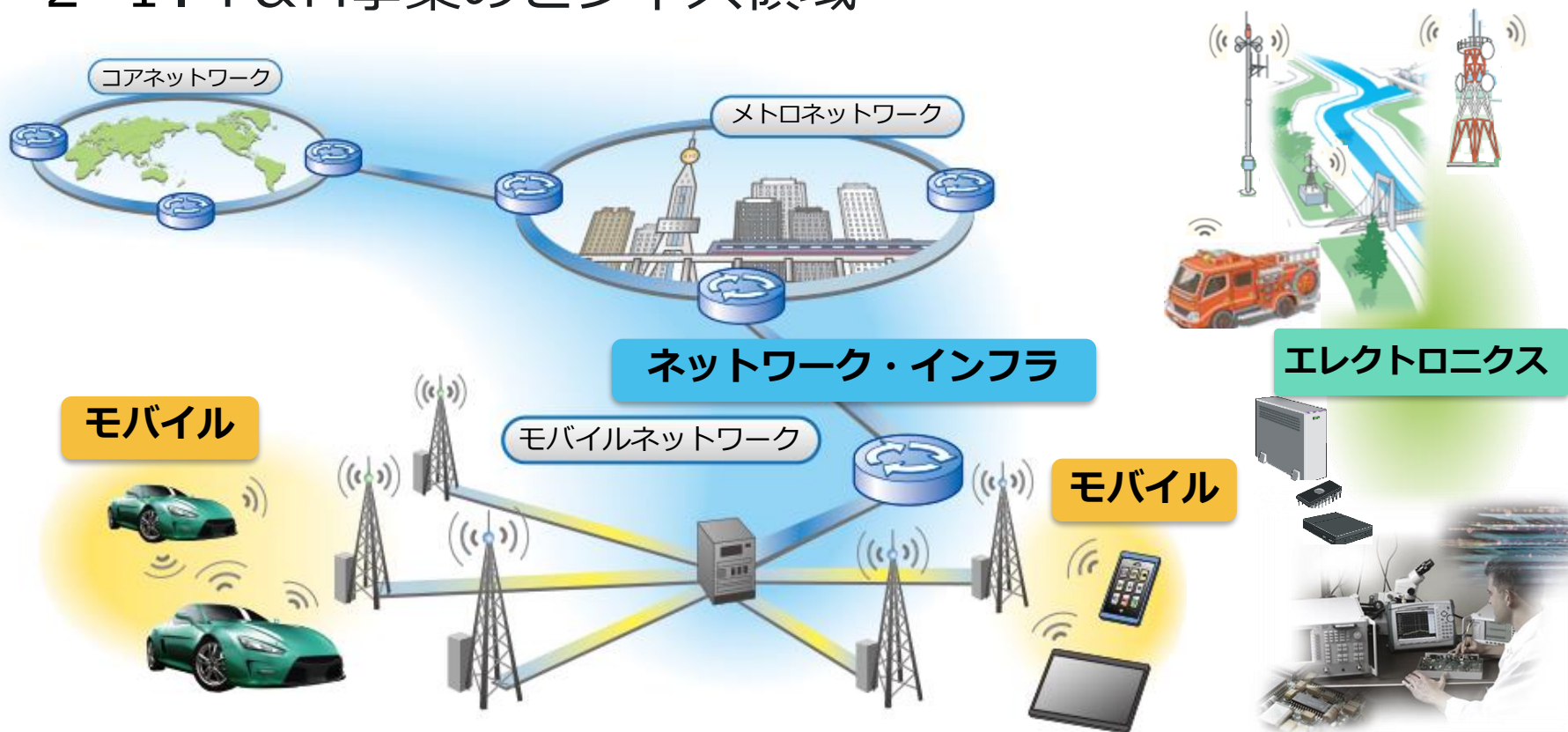
T&M 70%			PQA	その他
モバイル 56%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 19%	21%	9%

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 22%	アジア他 44%	米州 22%	EMEA 12%
-----------	-------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

I - 2 - 1 . T&M事業のビジネス領域



	研究開発	製造	建設/保守
有線通信分野	ネットワーク・インフラ(25%)		
無線通信分野	モバイル (56%)		
汎用分野	エレクトロニクス (19%)*		

*電子部品等

I - 3 . 中長期の事業戦略の基本方針

成長ドライバーを確実にキャッチして、
“利益ある持続的成長” を実現する

		市場 年平均 成長率 (当社推定)	ビジョン／成長ドライバー	中長期ガイドライン	
				売上 成長率	営業 利益率
	T&M	3-5%	5G/IoT社会を支えるリーディング カンパニーになる (1) 5G, LTE-Advanced (2) IoT/Automotive, Connectivity (3) IP Data traffic/Cloud Services	≧7%	≧20%
	PQA	3-5%	ワールドクラスの品質保証 ソリューションパートナーになる 異物検出から品質保証市場に拡大	≧7%	≧12%
連結		—	—	—	≧18%
ROE		—	—	≧15%	

I - 3 - 1 . GLP2020 : 売上高・営業利益計画 (1/2)

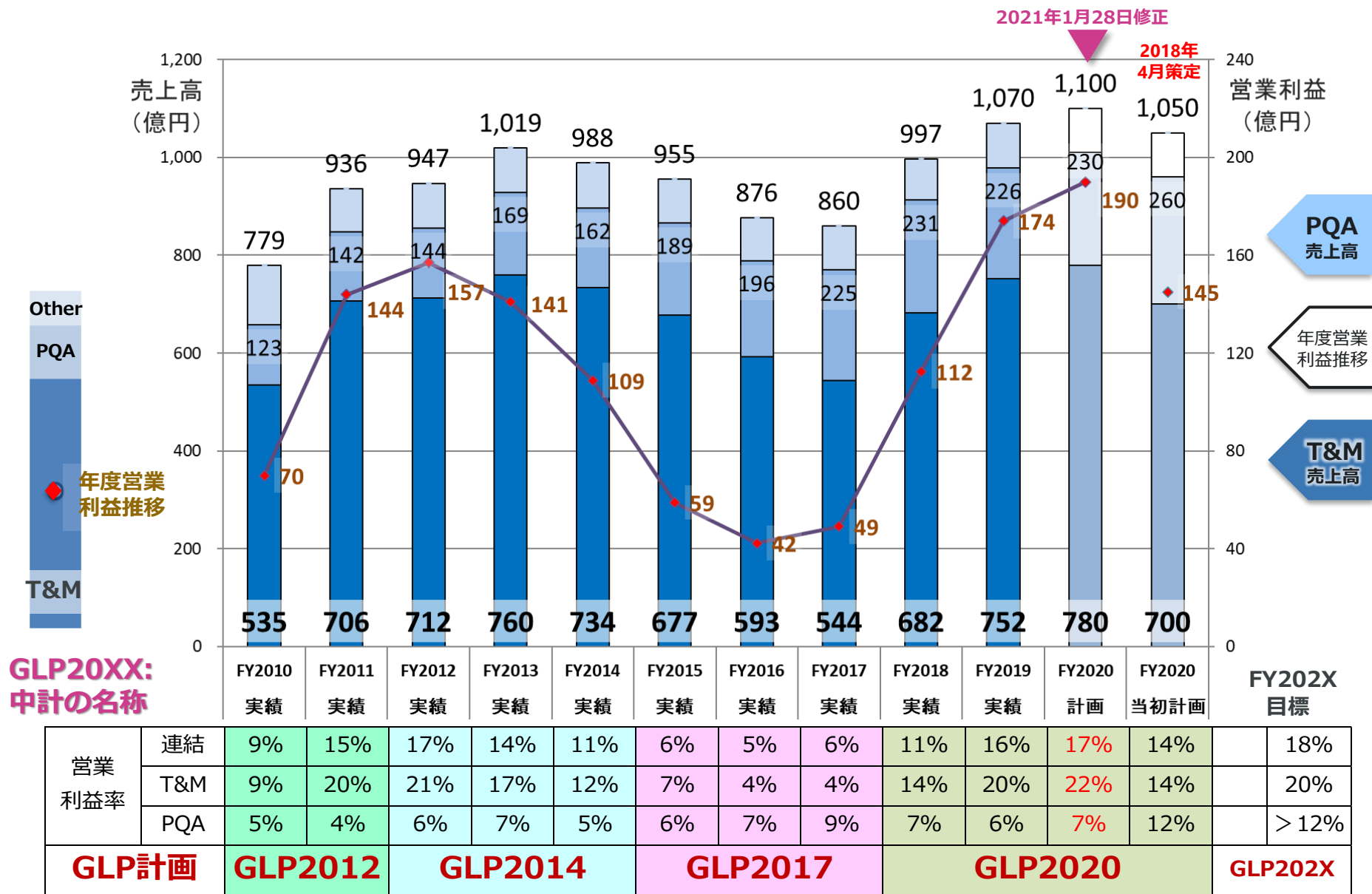
GLP2020

指標		FY2018 (実績)	FY2019 (実績)	FY2020 (2021年1月28日修正)	FY2020※
売上高		997 億円	1,070 億円	1,100 億円	1,050 億円
営業利益		112 億円	174 億円	190 億円	145 億円
営業利益率		11 %	16 %	17 %	14 %
当期利益		90 億円	134 億円	145 億円	110 億円
ROE		11 %	15 %	15 %	12 %
T&M 事業	売上高	682 億円	752億円	780億円	700 億円
	営業利益	94 億円	151億円	170億円	100 億円
	営業利益率	14 %	20 %	22 %	14 %
PQA 事業	売上高	231 億円	226 億円	230 億円	260 億円
	営業利益	16 億円	13 億円	15 億円	30 億円
	営業利益率	7 %	6 %	7 %	12 %

※2018年4月策定

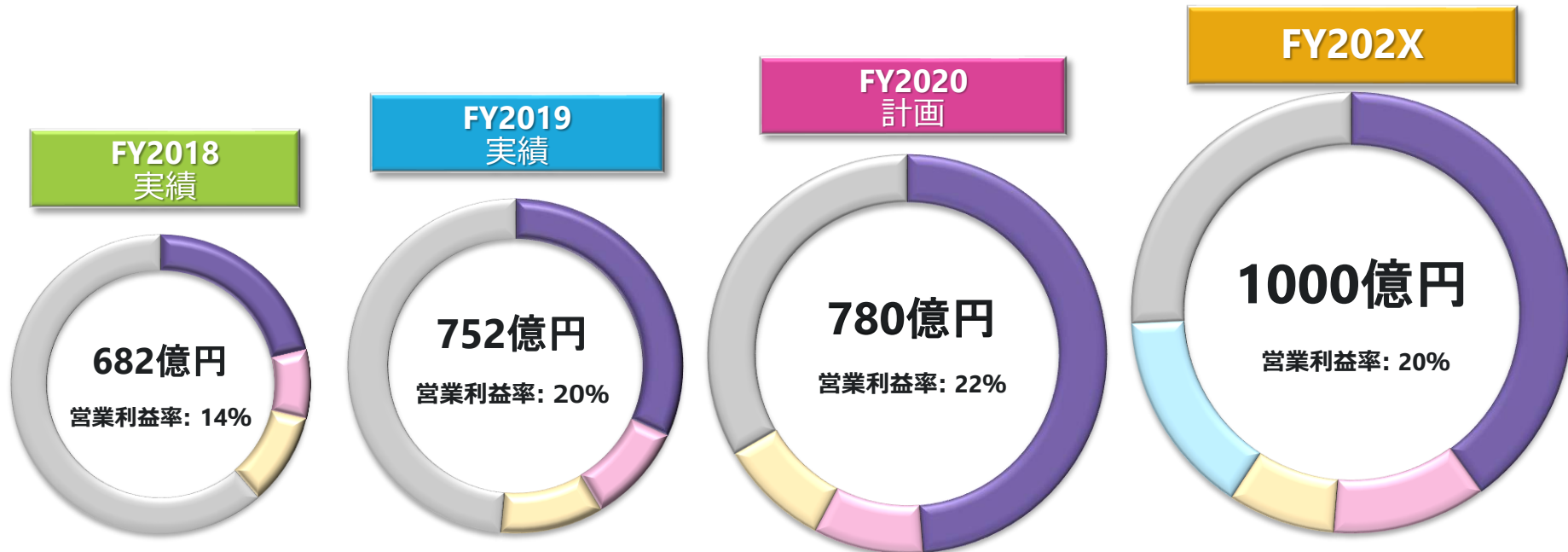
(参考) GLP2020想定為替レート : 1米ドル=105円、1ユーロ=125円

I - 3 - 2 . GLP2020 : 売上高・営業利益計画 (2/2)



I - 3 - 3 . GLP2020 T&M事業進捗

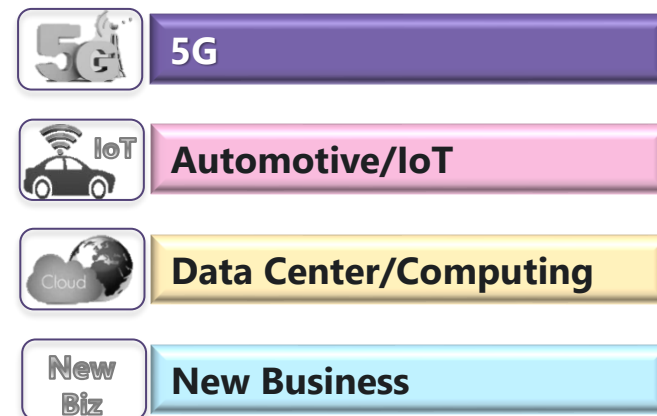
Beyond
2020



2020年度の取組

5Gビジネスの競争力強化に注力して成長機会を獲得

- ・ グローバルな開発体制・顧客サポート体制の充実
- ・ コンフォーマンステストシステム事業の推進



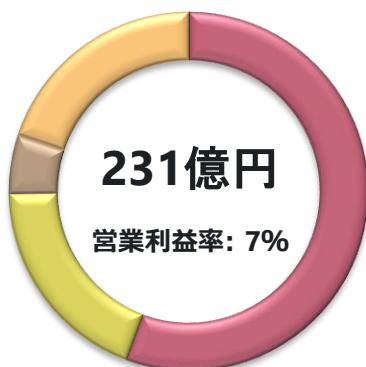
(注) FY2020の計画：2021年1月28日に発表した公表値です。

I - 3 - 4 . GLP2020 PQA事業進捗

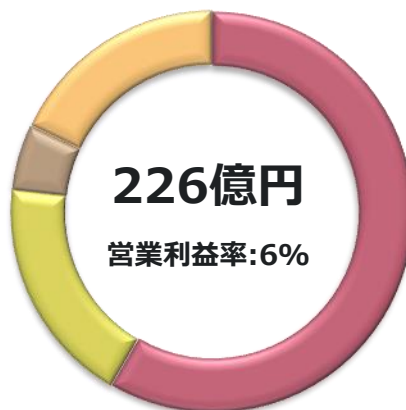
Beyond
2020

FY202X

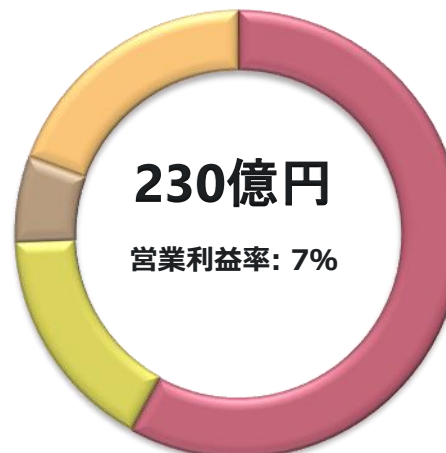
FY2018
実績



FY2019
実績



FY2020
計画



300億円

営業利益率: >12 %

2020年度の取組

- ・ 米州・欧州の販売拠点強化
- ・ ソリューションのプラットフォーム化推進

日本

米州

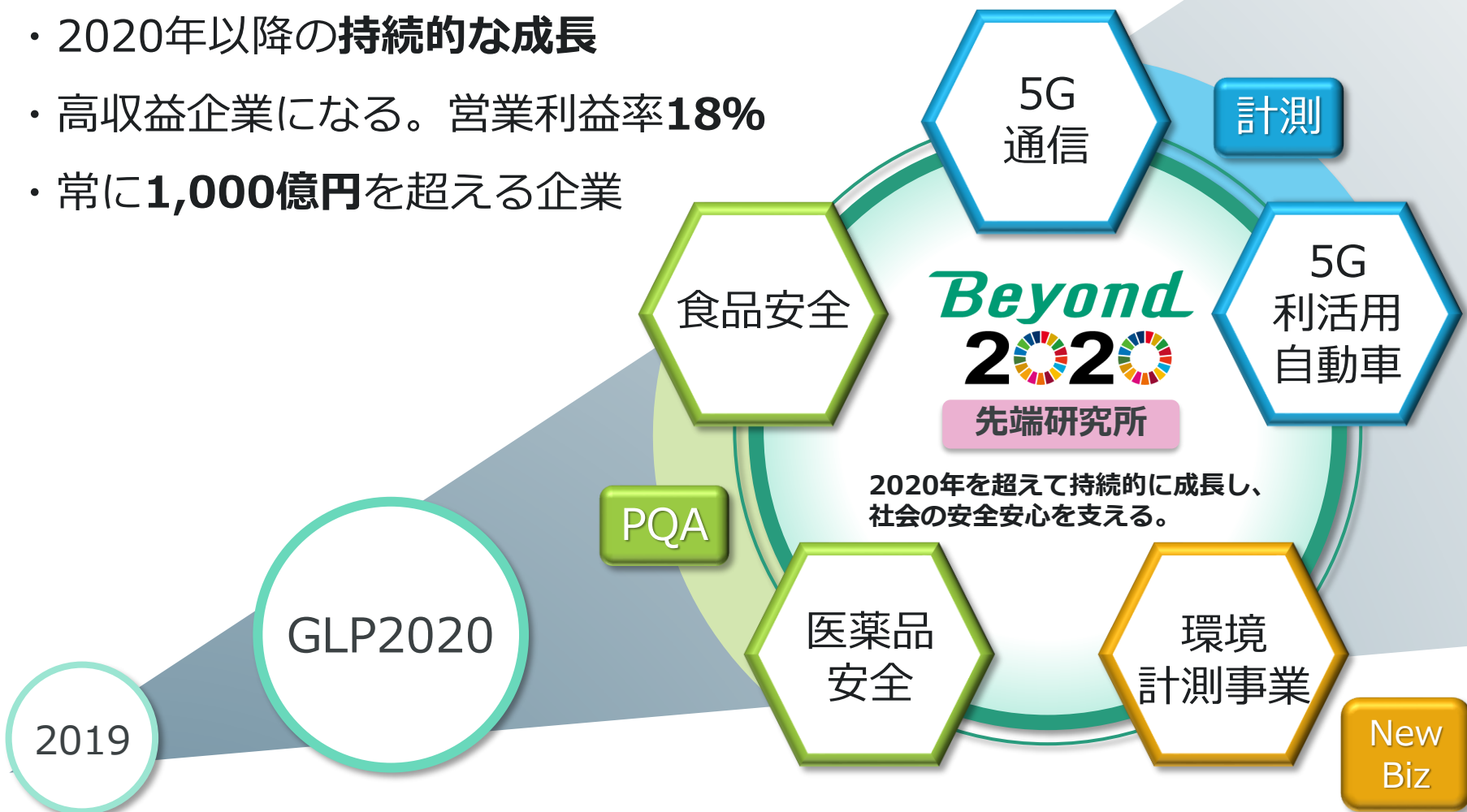
EMEA

アジア他

(注) FY2020の計画：2021年1月28日に発表した公表値です。

I - 4 . Beyond2020に向けて始動

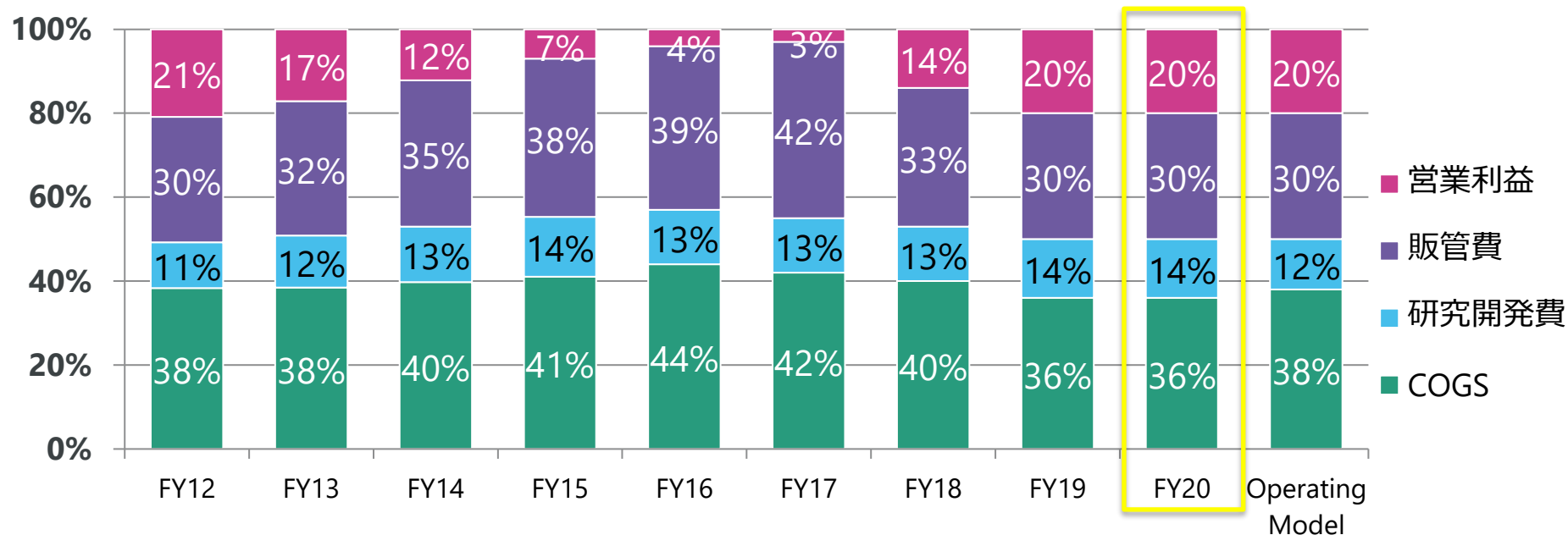
- ・ 2020年以降の**持続的な成長**
- ・ 高収益企業になる。営業利益率**18%**
- ・ 常に**1,000億円**を超える企業



Beyond2020の実現を通じて社会課題を解決する

Ⅱ. T&M事業

Ⅱ-1. T&M：利益体質改善目標



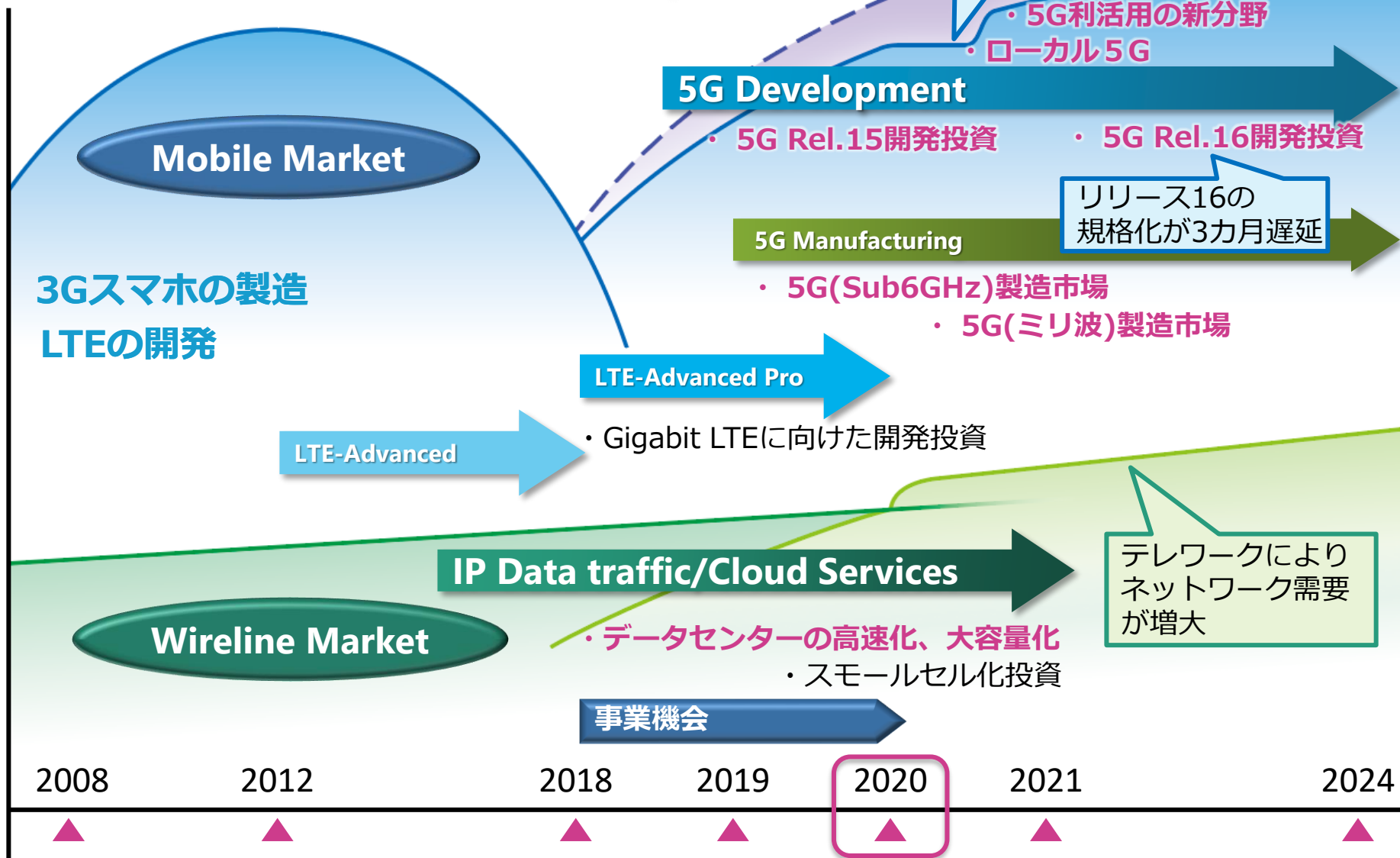
コスト構造の改善施策

- 高付加価値ソリューションの投入(サポートサービス、ソフトウェア)
- 開発 ROI & ROIC マネジメントの徹底(*1)
- 販管費：顧客動向の変化に対応した組織体制と人的資源の最適配分

*1 KPI：開発ROI（売上総利益／開発投資額） ≥ 4.0

Ⅱ-2. 計測市場トレンドと事業機会

市場規模



Ⅱ-2-1. 世界の5G状況

* 出所：一般公開情報を
参考に当社作成

- ・ 中国先行が鮮明に
- ・ 米中貿易摩擦の影響で欧州市場の5Gが減速の懸念
- ・ ミリ波の技術的課題により韓国が減速の懸念
- ・ アメリカはサブ6に方針転換で追い上げ

2020/10時点



欧州

- ➖ 英国,仏国等Huawei排除の動き拡大によりオペレータ負担増で5G普及減速懸念
- ・ 欧州委員会が早期の5G展開呼び掛け



中国

- ➕ 5G加入者はすでに1億人以上
- ➕ 5G基地局 41万局
- ➕ 7月新規販売端末の62%が5G
- ➕ 世界の5Gスマホの75%が中国メーカ製



インド/東南アジア/オセアニア

- ・ 豪州,タイ,フィリピン等5G開始
- ➖ インドがHuawei/ZTE排除を決定
- ・ 5Gの本格普及は2022年以降予想



韓国

- ➖ 5G加入者680万人も顧客不満拡大「繋がらない」「料金に見合わない」
- ➖ 年内のミリ波サービス開始を延期



US

- ➖ VzWのミリ波 5G は加入者伸び悩み
- ➕ TMOは サブ6 5G加入者急増で躍進
⇒ VzW, ATTもサブ6 注力に方向転換
- ➕ 米政府 3.5-3.6GHzに続き3.4-3.5GHzを開放
- ➕ iPhone12発売



日本

- ・ 5G加入者は33万人(6月末)
- ・ 総務省5G基地局整備計画前倒し
- ・ ドコモは21年3月 250万人目標 (SBは23年180万人目標)
- ・ 各社とも2021年のSA開始を計画
- ・ NTTがドコモ完全子会社化を発表

Ⅱ-2-2. 5Gサービスのロードマップ

* 出所：一般公開情報を参考に当社作成

CY2020

CY2021

CY2022

CY2023

Rel.16

Rel.17

Rel.18



Rel.16チップ開発

Rel.17チップ開発

Rel.15商用端末開発

Rel.16商用端末開発

Rel.17商用端末開発



サービスイン



検討中

2020年9月末現在（図は主要国を抜粋）

II - 2 - 3 . Rel-16、Rel-17ダイジェスト

* 出所：一般公開情報を
参考に当社作成



CY2018

CY2019

CY2020

CY2021

Release15

Release16

Release17



Extreme Mobile Broadband

Ecosystem Growth

産業用IoT



- 高いレジリエンス (CoMP、multi-TRP等による複数の通信経路の確保)
- **NR-U** : 免許不要な周波数帯の利用 (5GHz帯、6GHz帯)
- ローカル5G (非公共ネットワークの仕組み導入)

クルマ、
その他



- 超高信頼性低遅延通信の強化
- TSN*による時刻同期をサポート
- 高精度の測位機能 (数mの精度)

- **5G V2X** : C-V2Xの強化

- 産業用IoT “**NR-Light**”の導入 (監視カメラやウェアラブル端末のMTC向け)
- 60GHz帯のNR-U

- 高精度の測位機能 (数10cmの精度)

- **サイドリンク通信**の強化 (基地局不要の機器間通信に対応)
- V2X向けマルチキャスト
- 非地上ネットワーク (衛星の活用他)

Broadband enhancement

ネット
ワークの
発展



- **IAB** : アクセスとバックホールの統合 (ミリ波を基地局間の接続にも使用)
- 無線と有線のコンバージェンス

- 52.6GHz超の周波数利用 (71GHz への拡張)
- ネットワークスライシングの強化
- ネットワークオートメーションの強化

デバイスの
機能強化



- 電力消費量低減を支援する機能
- Massive MIMOの強化 (マルチユーザMIMO)

- さらなる電力消費量低減機能
- さらに強化されたMIMO
- マルチUSIM対応
- クラウドゲームのQoS向上

NR-U: NR-Unlicensed IAB: Integrated Access and Backhaul

*TSN (Time Sensitive Networking) : 元々は、イーサネット通信において、時間の同期性を保証しリアルタイム性を確保できるようにしたネットワークの規格

Ⅱ-2-4. 5G端末の開発・製造プロセスとテストソリューション

Sub6 / ミリ波

チップ開発・商用化端末開発

チップセットメーカー
の技術検証

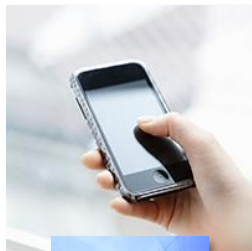


プロトコル



ベースバンドチップ
セット / RF回路

端末メーカーの
結合・性能評価



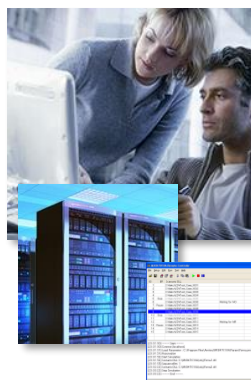
機能・性能評価

Sub6 / ミリ波

商用化端末開発

端末メーカー/テストハウス
規格適合性試験

Conformance Test
(CT)



事業者受入試験

Carrier Acceptance
Test (CAT)



Sub6

ミリ波

量産化

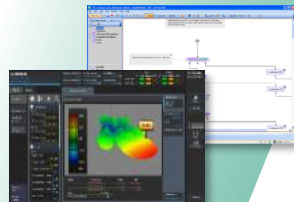
量産試験



RF校正・検査



MT8000A
ラジオコミュニケーション
テストステーション

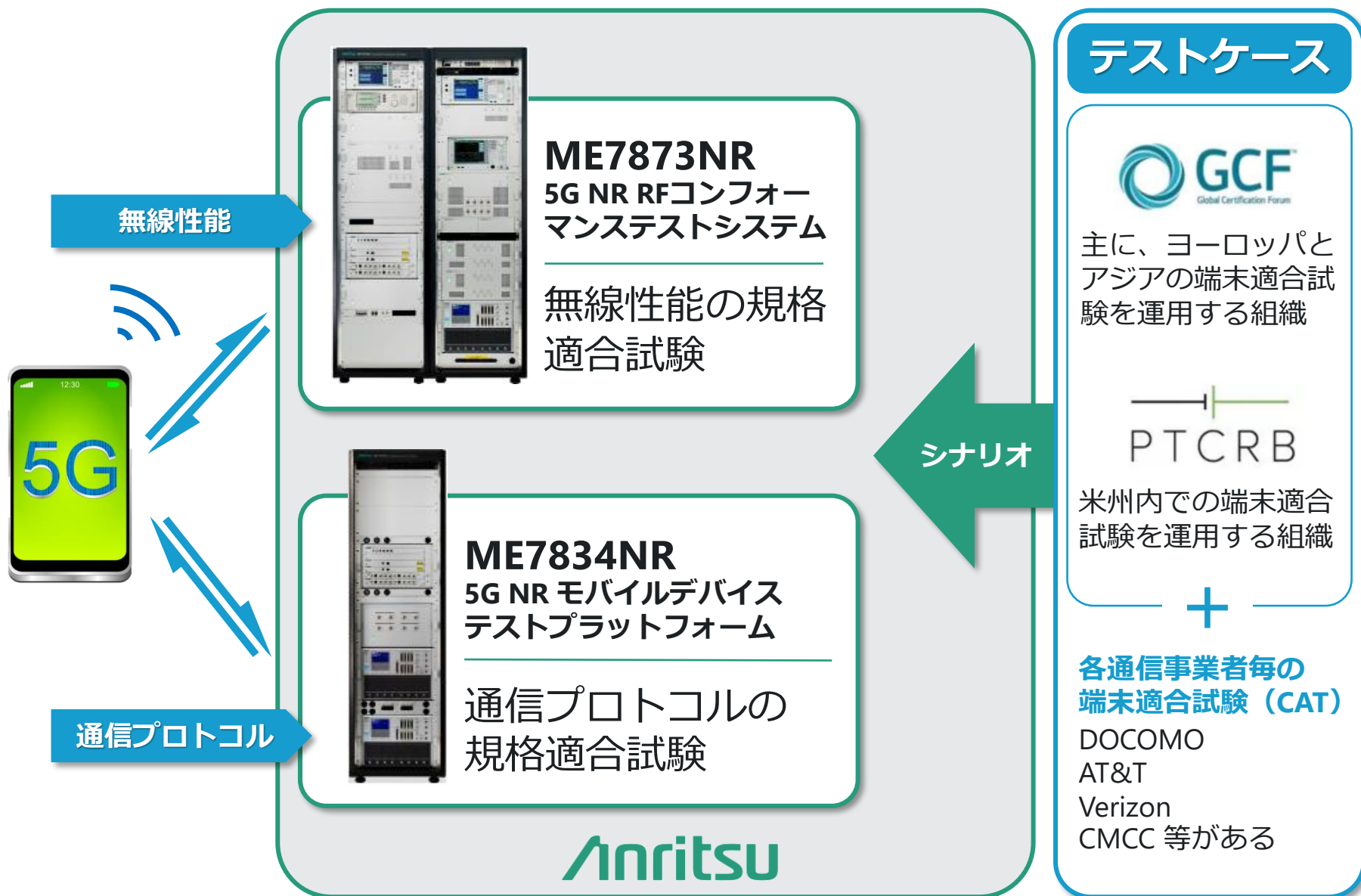


ME7873NR/ME7834NR
5G NRコンFORMANCE・事
業者受入試験テストシステム



MT8870A
ユニバーサルワイヤレス
テストセット

Ⅱ-2-5. 5Gテストソリューション コンフォーマンス試験

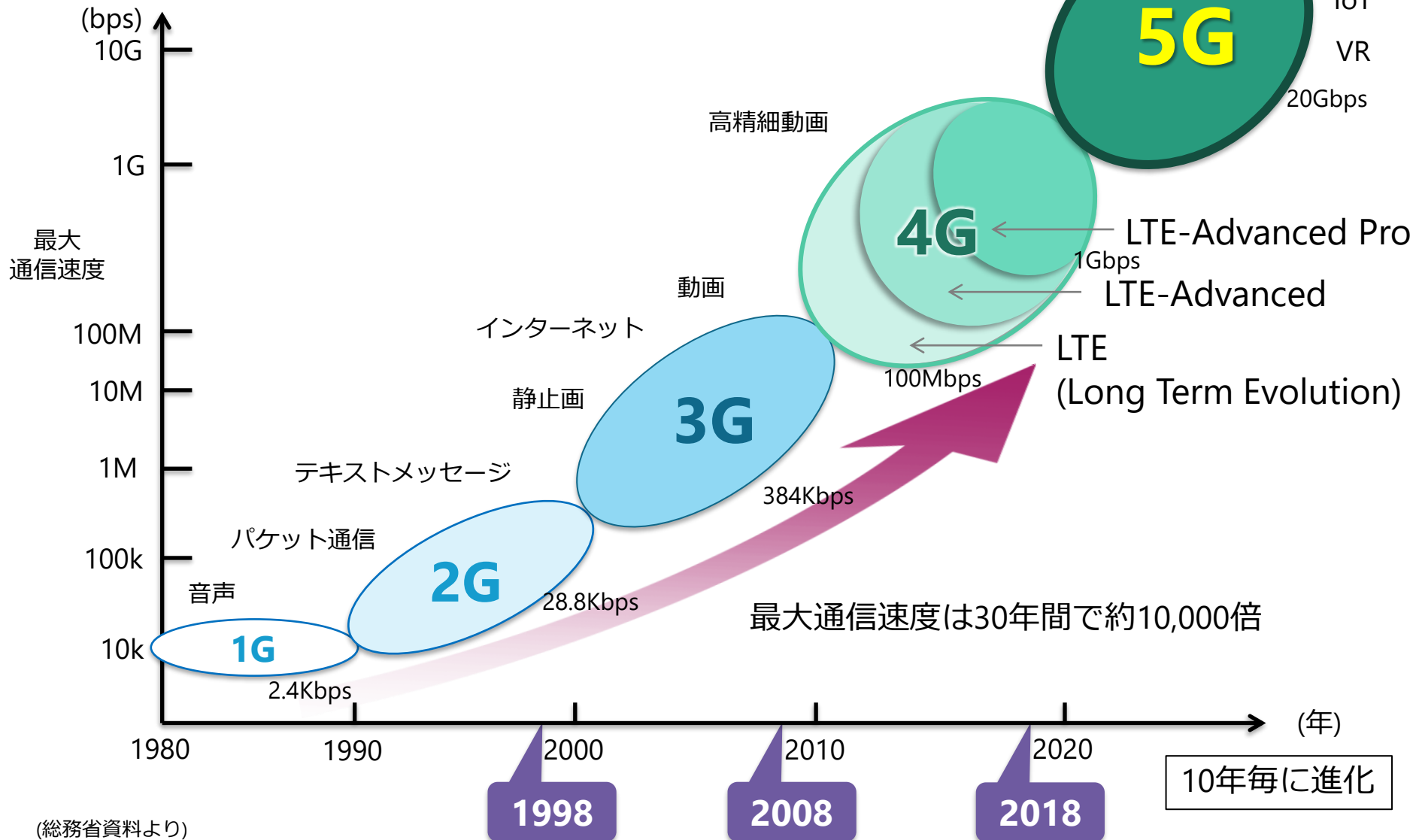


Ⅱ-2-6. モバイルテストソリューションと事業機会<LTE>

	プラットフォーム (コア) 開発	規格適合試験		オペレータ 受入試験	スマートフォン 商用開発
		RF	プロトコル		
用途	通信規格開発 チップセット開発	規格適合性試験 相互接続試験		通信キャリア認証 試験	アプリ開発 端末動作検証
主な顧客	チップセットベン ダー、端末ベンダー	チップセットベンダー、端末ベン ダー、通信キャリア		通信キャリア、テスト ハウス、端末ベンダー	端末ベンダー アプリ開発事業者
主要テーマ	・FDD / TDD-LTE, LTE-Advanced, LTE-Advanced PRO ・CA (Carrier aggregation), VoLTE (Voice over LTE) ・MIMO (Multi Input Multi Output) ・3G/LTE and SRW (Short Range Wireless)のチップセット一体化				・データスループッ ト向上 ・消費電力 など
テスト ソリュー ション					
競合状況	アンリツ : No.1ポジション R&S ローデ & シュワルツ		R&S ローデ & シュワルツ キーサイト(アナイト) スパイレント		R&S キーサイト

Ⅱ-2-7. モバイル通信の進化

移動通信システムの進化をサポートする



(総務省資料より)

Ⅱ-2-8. 5Gネットワークを支えるアンリツのソリューション

5Gの特徴 :

1/10×Latency

100×Peak Data Rate

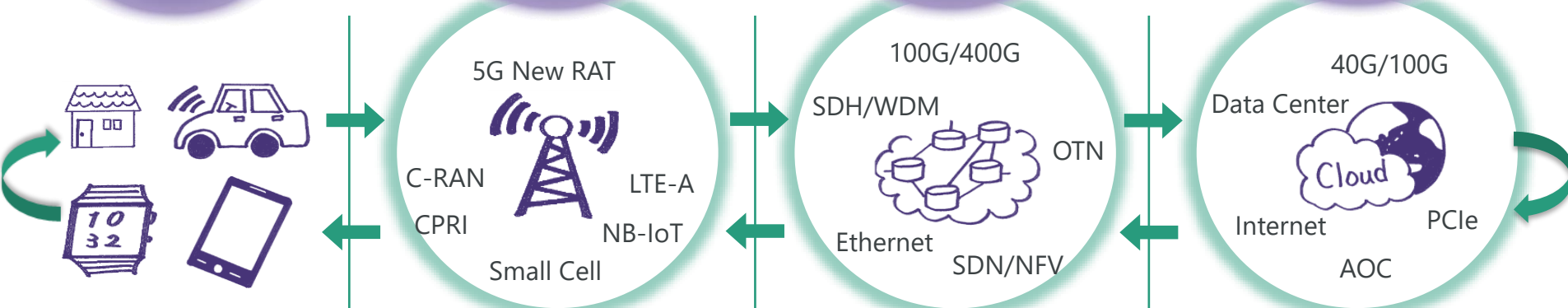
100×Capacity

スマート
デバイス

モバイル
ネットワーク

Fixed
ネットワーク

Cloud



IoTデバイス・モジュール
の開発製造用ソリュー
ション

RFから光まで幅広い製品
群で対応

100G/400Gの高速通信
に対応

常に業界をリードする
ビット・エラー・レート・
テストで対応

IoTデバイス/モジュール測定

スペクトラムアナライザ
シグナルアナライザ

NEW ハンドヘルド
スペクトラムアナライザ

BTSマスタ

OTDR

40G/100G アナライザ

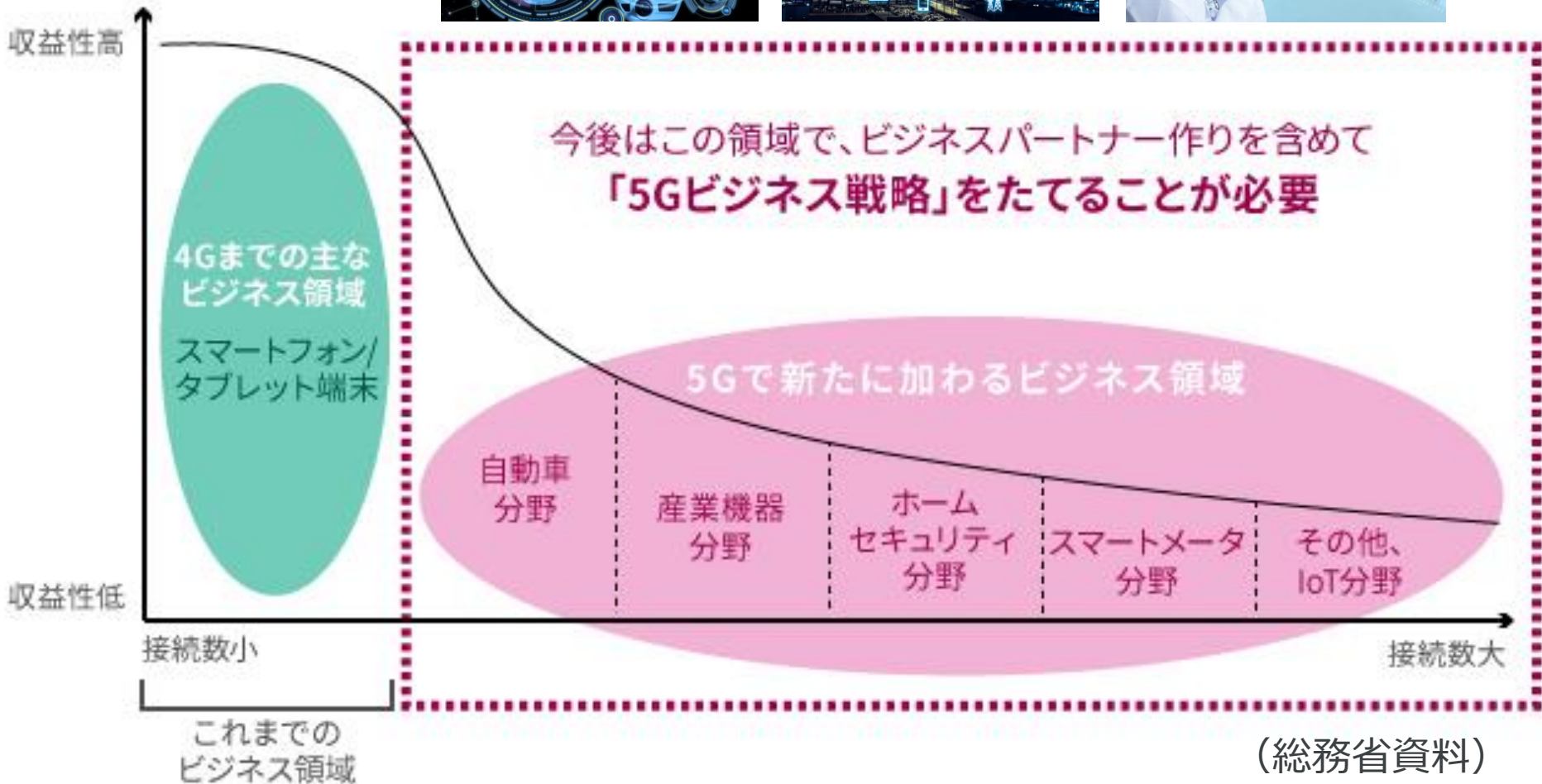
400G アナライザ

BERTWave
Series

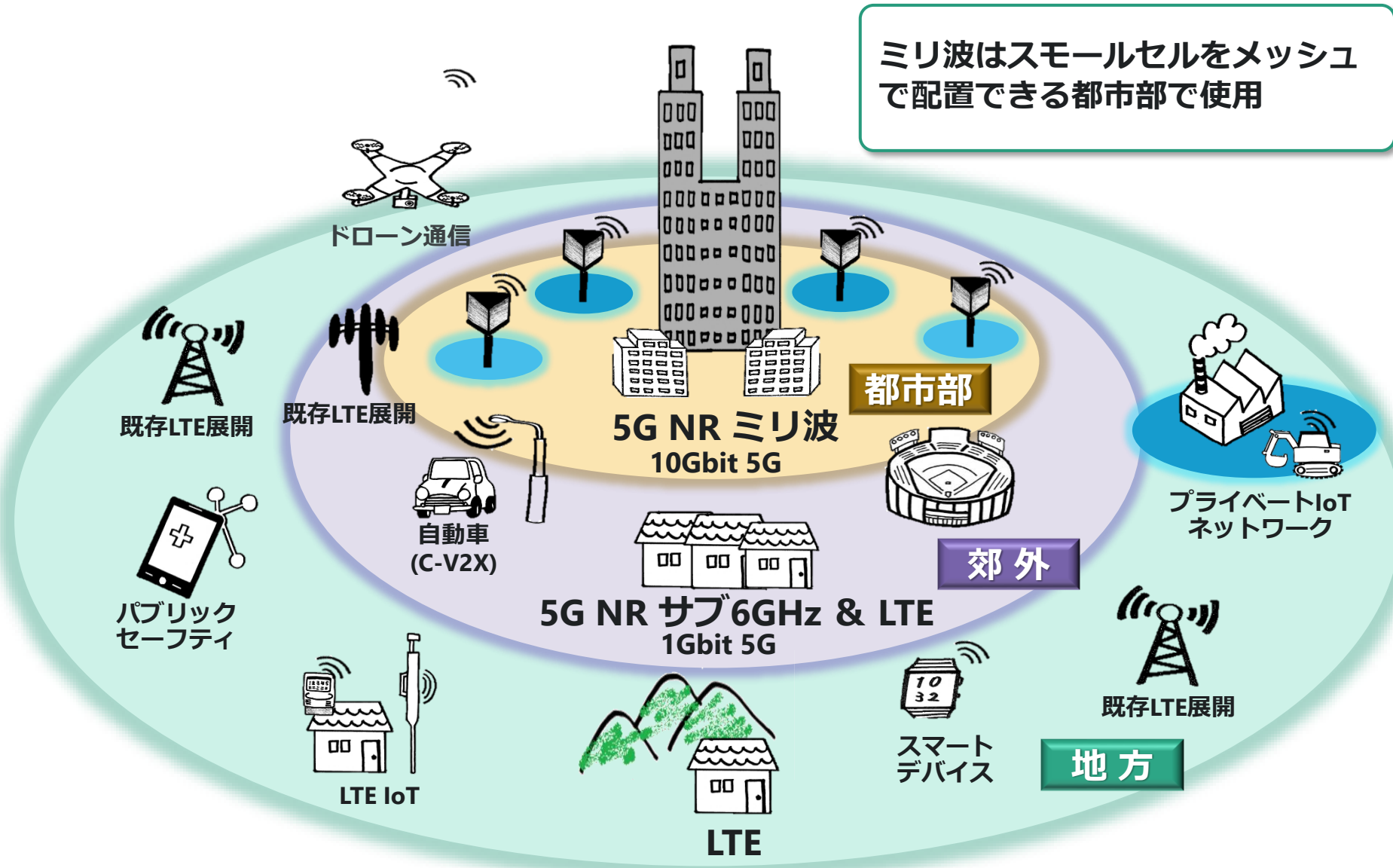
シグナル クオリ
ティ アナライザ

eoSight
Big Data Analytics

Ⅱ-2-9. 5Gは社会イノベーションのインフラとなる

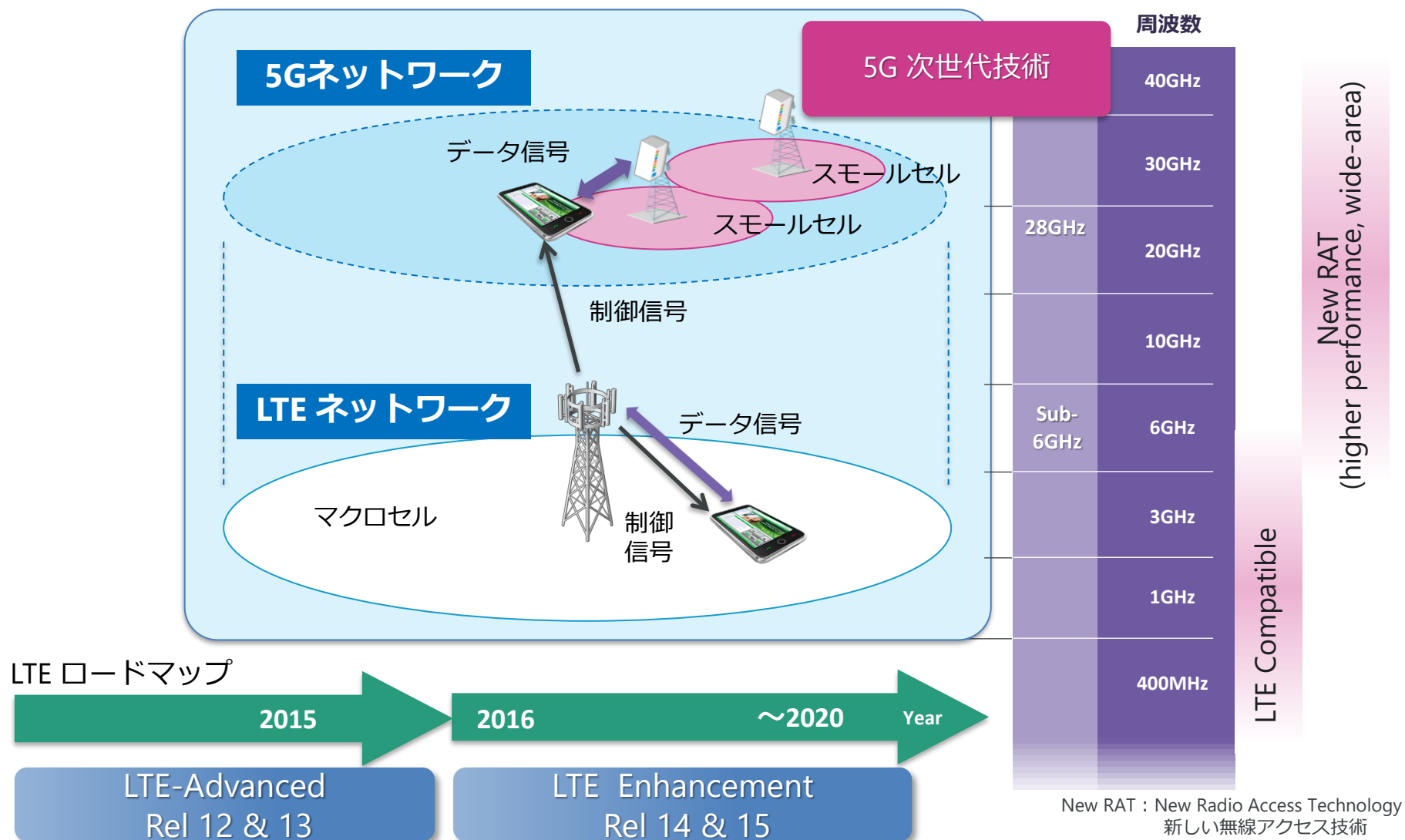


Ⅱ-2-10. 5G サービスの展開予想

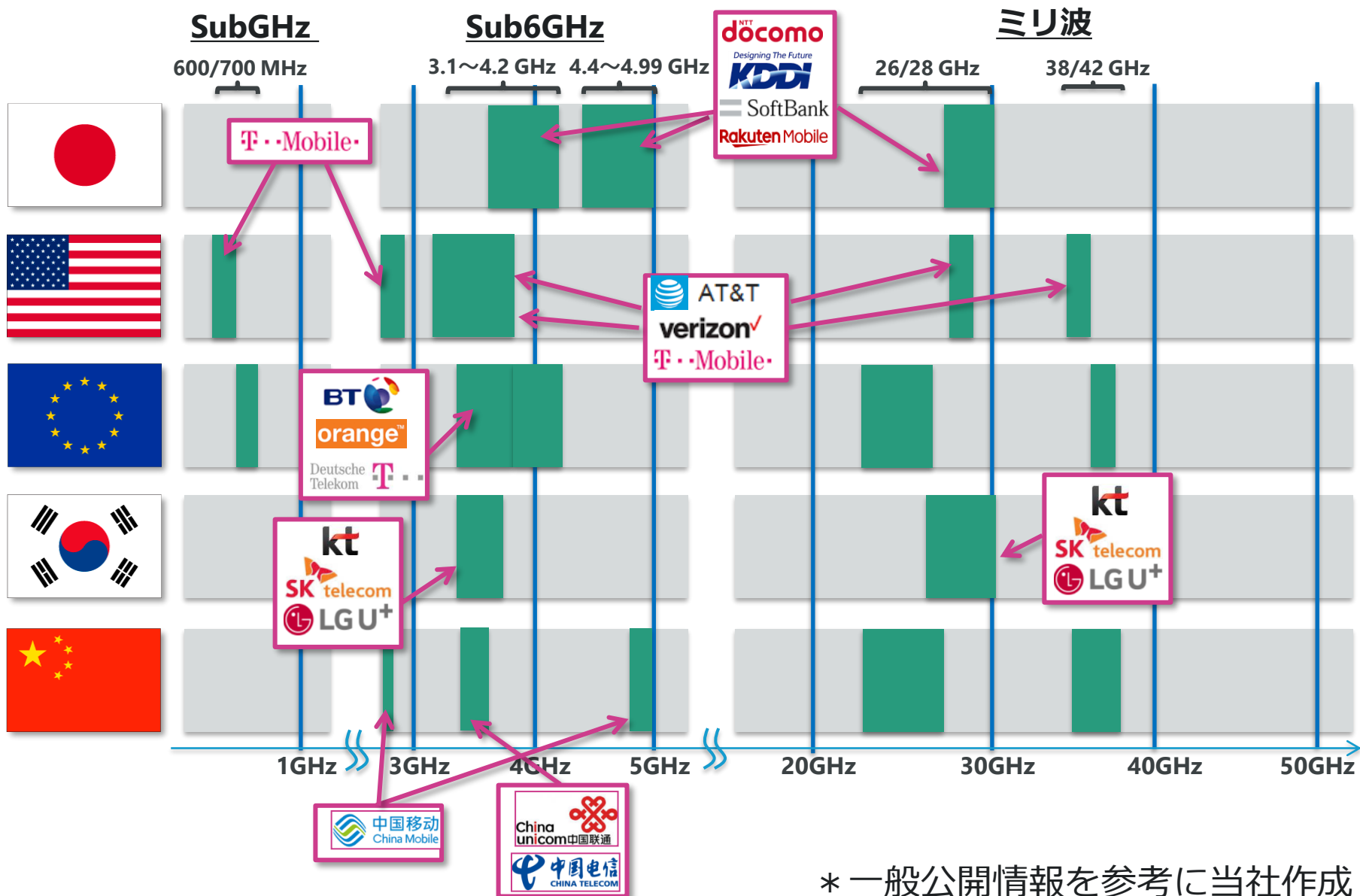


Ⅱ-2-11. 5GとLTEは共存し関係して動作する

5G = LTEの技術進化 + 次世代無線技術



Ⅱ-2-12. 各国の5G向け周波数

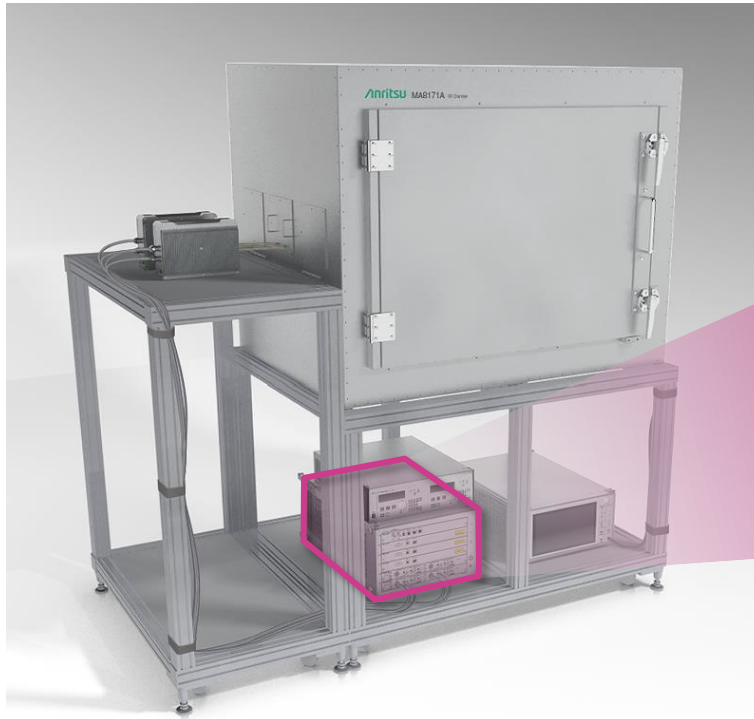


* 一般公開情報を参考に当社作成

Ⅱ-2-13. 5Gチップセット・端末開発用ソリューション

5G市場向けチップセットや端末などの開発用テスト ラジオコミュニケーションテストステーション MT8000A

チャンバー（電波暗箱）

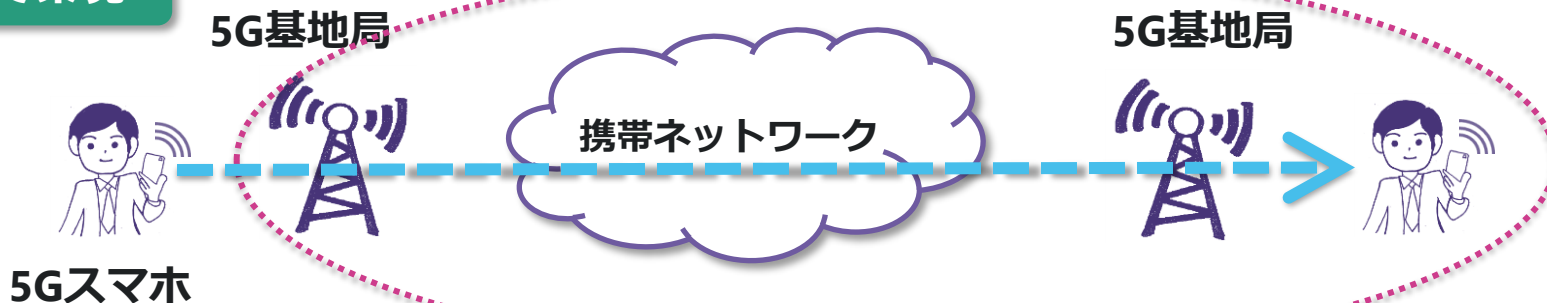


MT8000A



Ⅱ-2-14. MT8000Aの役割

実環境



擬似化

試験環境



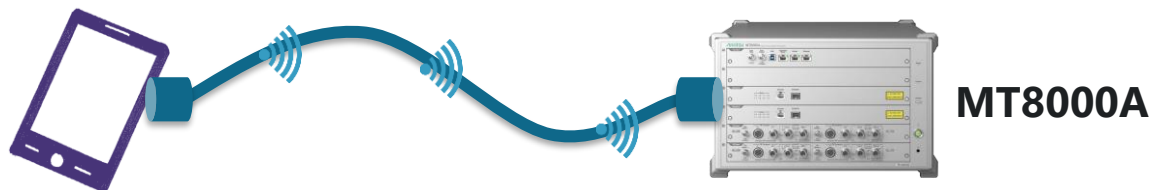
MT8000A

基地局接続では確認できない異常が発生したときや基地局から基地局へハンドオーバーしたときなど様々なシミュレーションが可能

擬似基地局となりスマホと接続して性能試験する

Ⅱ-2-15. 高い周波数（ミリ波）の測定技術

低い周波数の場合



ケーブル接続することによって
正確に測定ができる

高い周波数（ミリ波）の場合

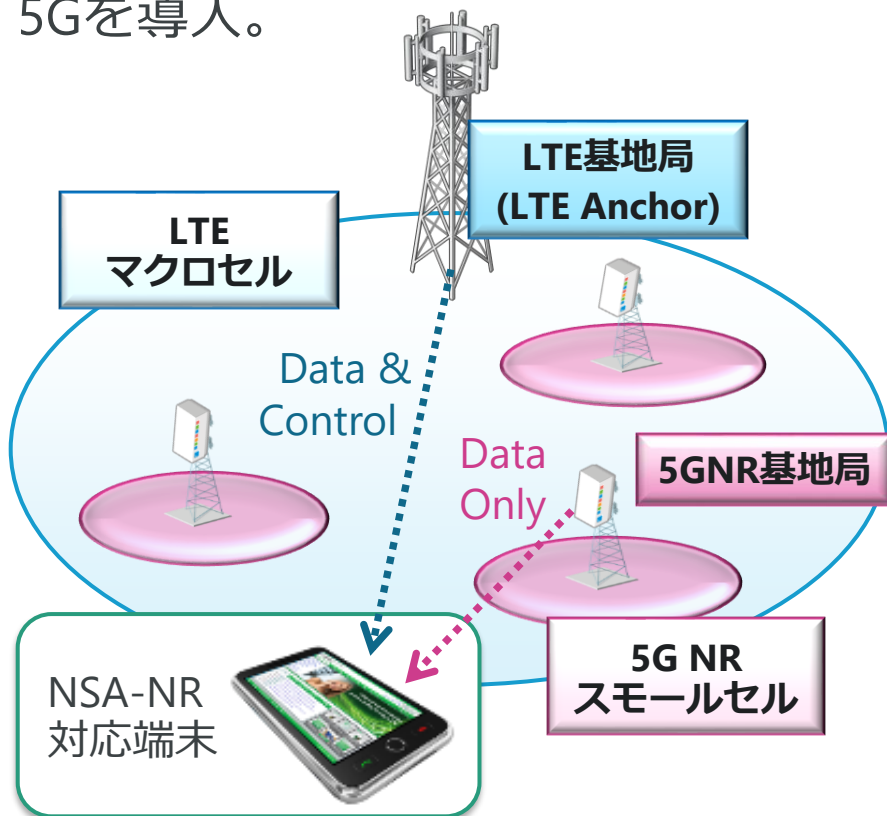
チャンバーを使ったOTA
(Over The Air) 接続で正確に
測定ができる



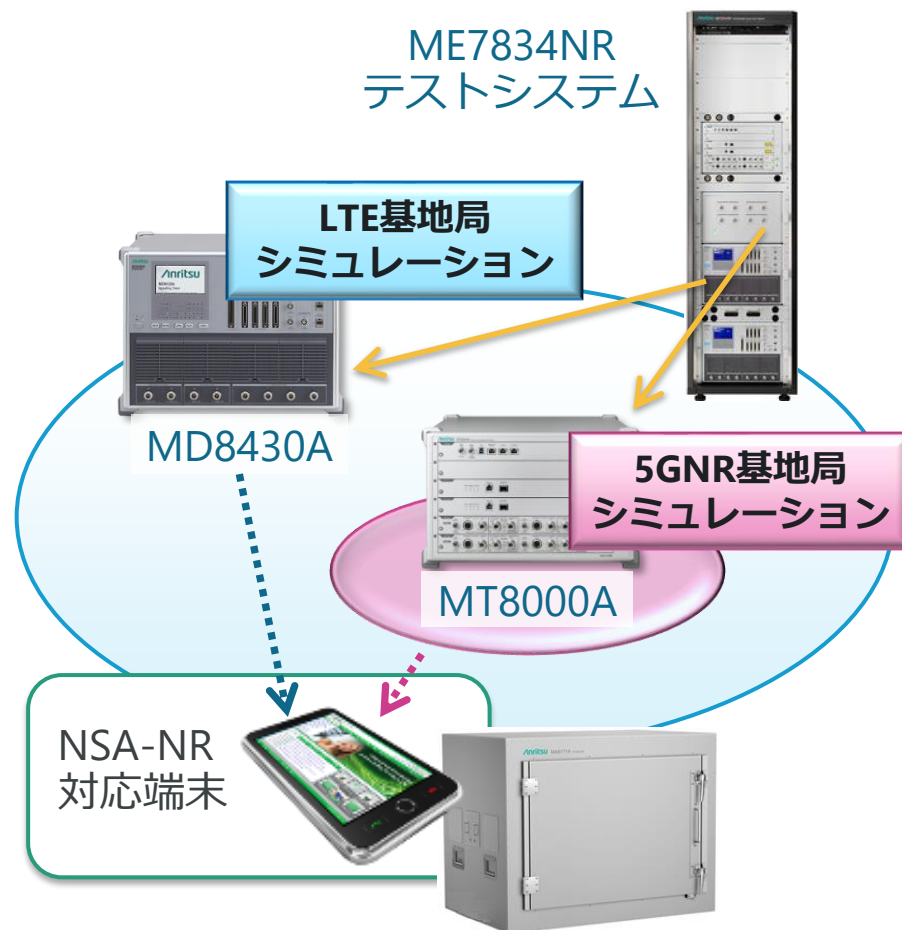
Ⅱ-2-16. 5G NSA-NR端末開発のためのテストソリューション

NSA-NR ネットワーク構成

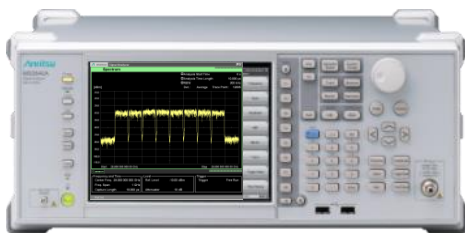
LTEのコアネットワークを生かして5Gを導入。



NSA-NR テスト環境



Ⅱ - 2 - 17. 5G基地局/端末向けソリューション



MS2850A
シグナルアナライザ

5Gの基地局や端末のR&D、製造に必要な
ミリ波測定ソリューションを今までに無い
低価格で実現したシグナルアナライザ

周波数範囲：9 kHz~32 GHz/44.5 GHz

解析帯域幅：255 MHz (標準)、510 MHz (オプション)、
1GHz (オプション)

今までのLTE用のシグナルアナライザ



- 6GHz以下の周波数が主体
- 解析帯域は20MHzから数百MHz



5G用のシグナルアナライザ



- 44.5GHzまでの周波数をカバー
- 解析帯域は1GHzまで対応
- 商用開発、製造で導入できる低価格

5G NR基地局のフィールド性能測定やカバレッジマッピング

フィールドマスタプロ MS2090A

- ・周波数範囲：9 kHz～9/14/20/26.5/32/43.5/54 GHzをサポート
- ・5G基地局だけでなく、既存のGSM、LTEなどもサポート
5G復調にも対応
- ・54 GHzまでの送信スプリアス測定

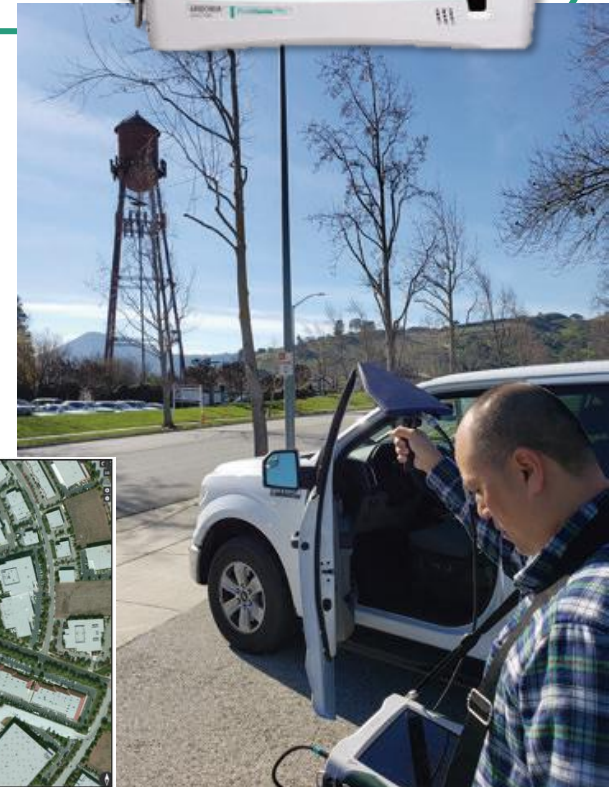
使用例：5G NR基地局測定

3GPP TS 38.104 V15準拠のgNB基地局パフォーマンス検証

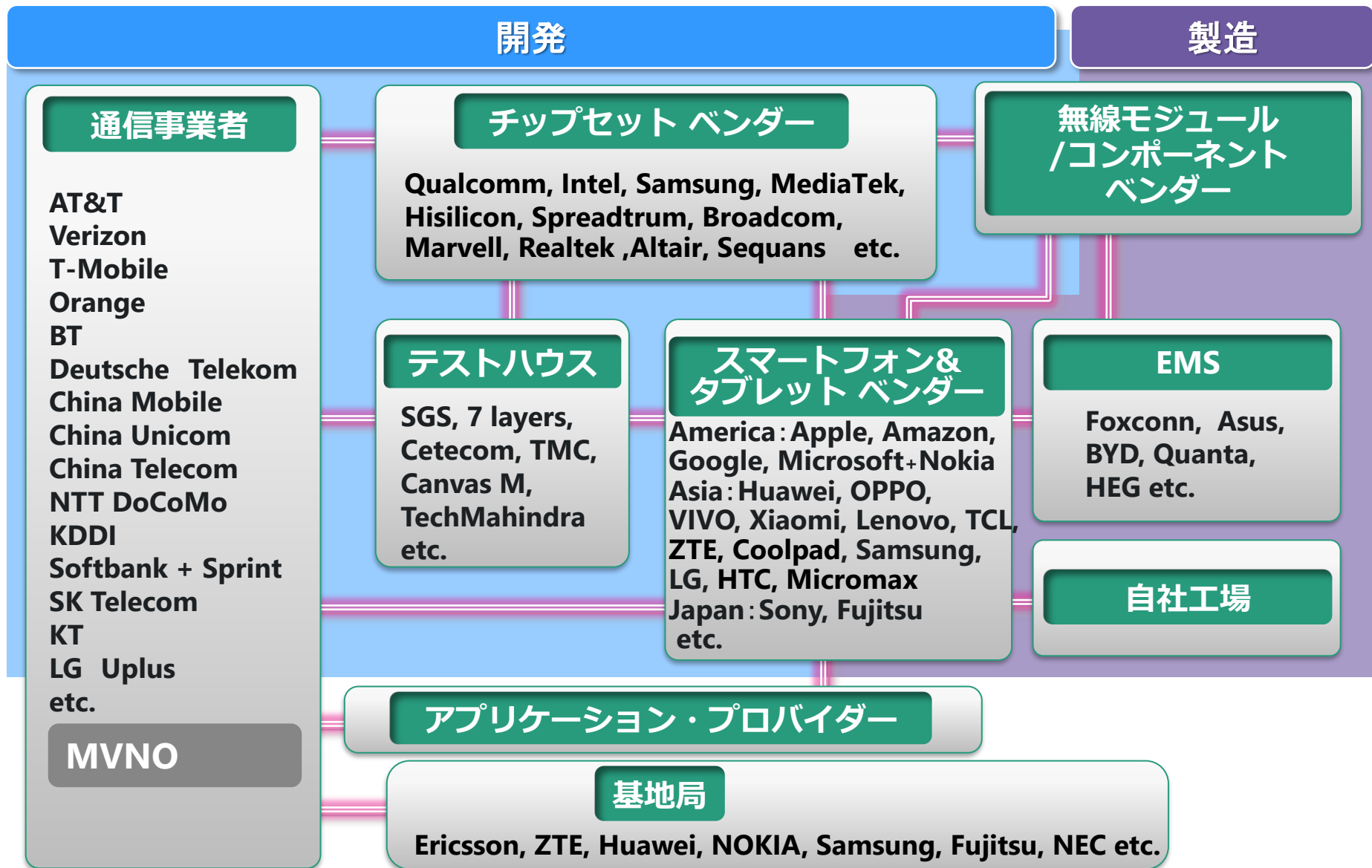
- ・周波数エラー・占有帯域幅
- ・タイムオフセット・隣接チャネル漏洩比
- ・セル/セクタID・12.75 GHzまでの送信機スプリアス
- ・変調品質・EIRP
- ・不要放射・同期信号ブロック (SSB)
- ・FR1、FR2双方に対応・最大64ビームに対応

使用例：5Gカバレッジマッピング

チャンネルパワー、EIRP、またはRSRPを含むRFデータを連続測定し、特定の場所における5Gの信号強度を地図上に表示。測定結果をデジタルマップや建築物平面図にグラフ表示。

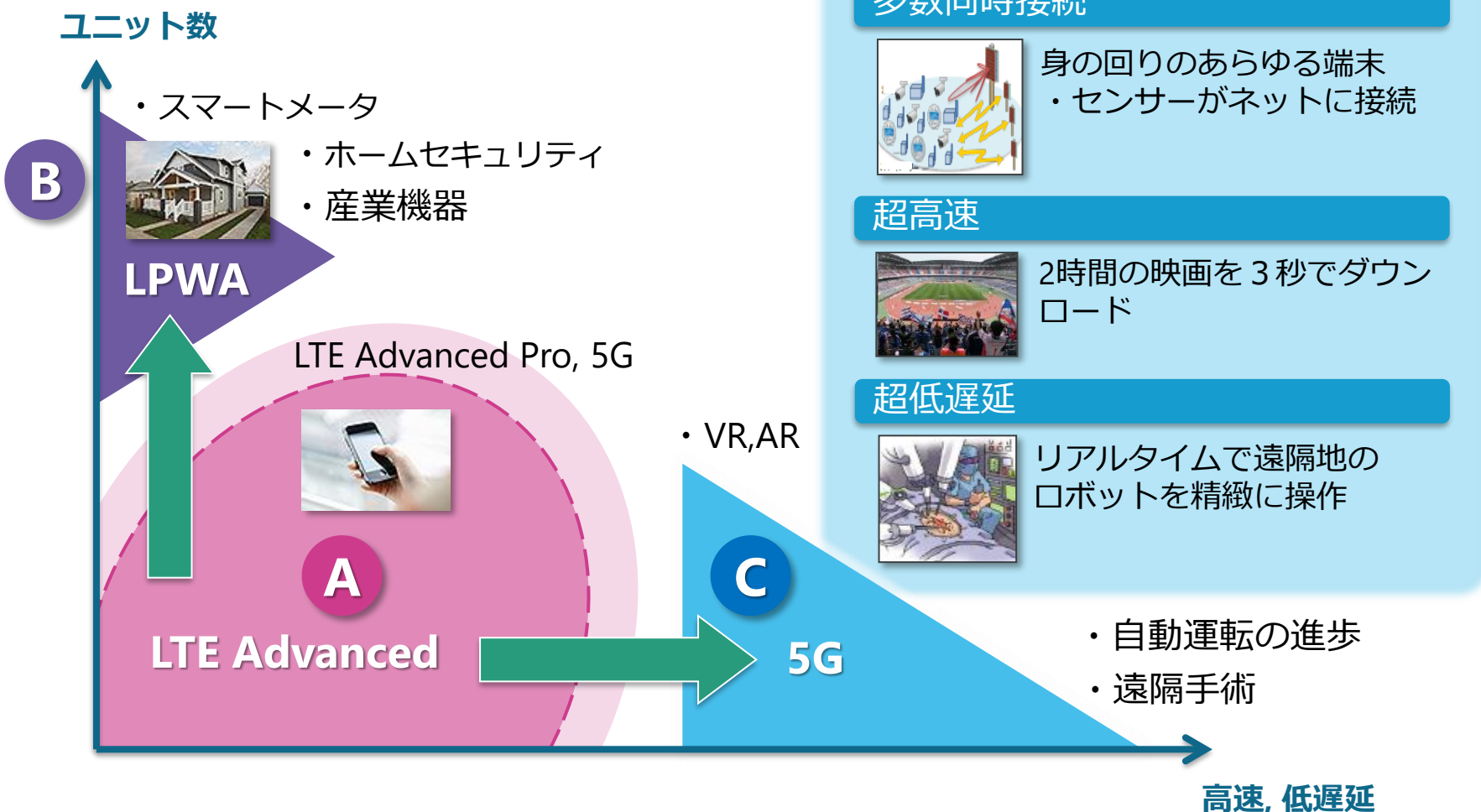


Ⅱ-2-19. モバイル通信市場の業界構造



Ⅱ-3. 産業別テストソリューション

5Gの利活用により、多様な産業分野、そして新しい市場の創造をサポートしていくことで、収益機会を拡大。



Ⅱ-3-1. スマートフォンの製造ソリューション

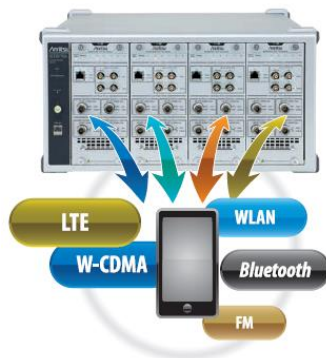
A

最近の動向

1. Huawei, Vivo, Oppo
中国ベンダーの台頭と競争激化 ()
2. インド製造市場の成長

2G / 3G / LTE やコネクティビティ向けソリューション

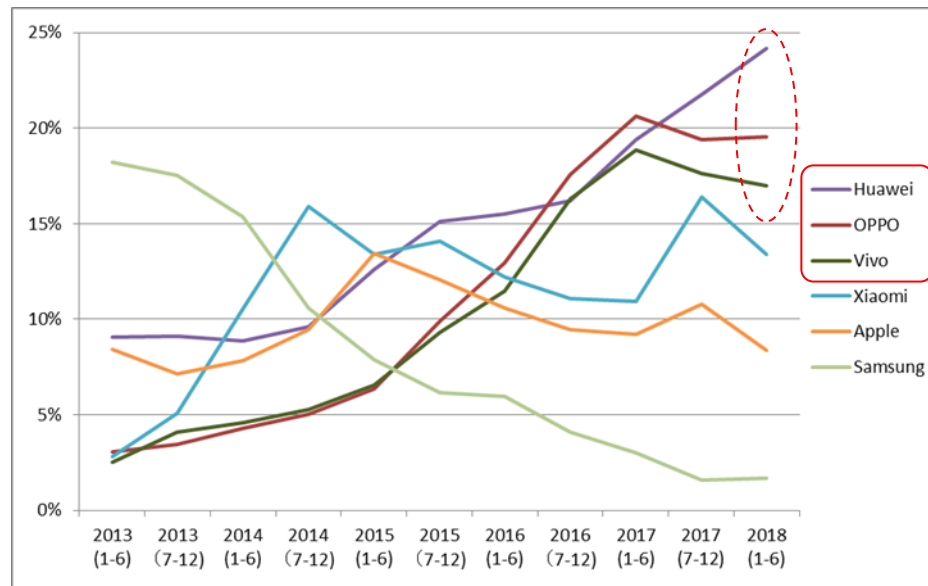
MT8870A
**Universal
Wireless Test Set**



主な競合

ローデ&シュワルツ、キーサイト

中国でのベンダー別スマートフォン出荷シェア *



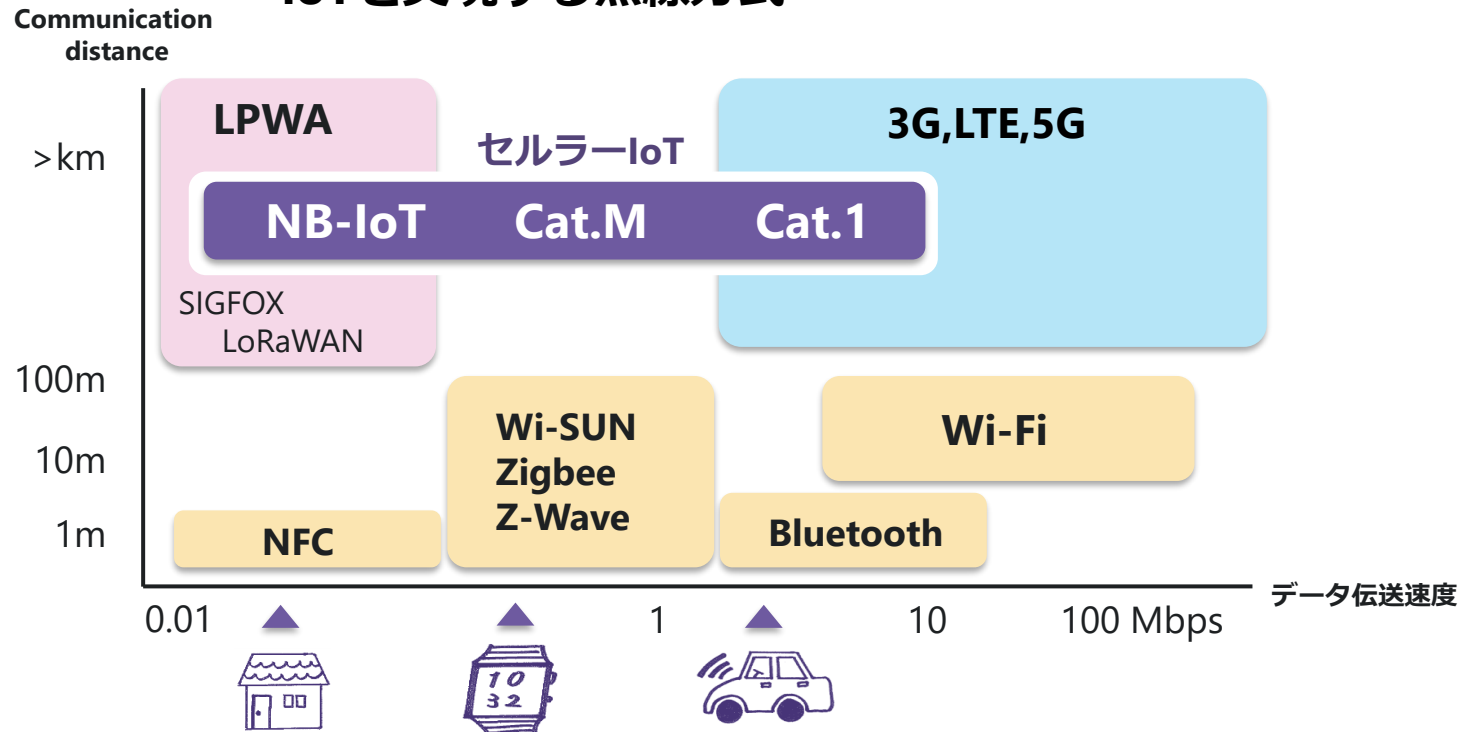
*Source : Gartner "Market Share: PCs, Ultramobiles and Mobile Phones, All Countries, 2Q18 Update" 24 Aug. 2018
Smartphone = Basic Phone, Premium Phone, Utility Phone
OS=Excluding WindowsRT and Proprietary
Graph created by Anritsu based on Gartner research

本レポートにおいてガーートナーに帰属するすべての記述は、ガーートナーの顧客向けに発行された配信購読サービスの一部として発行されたデータ、リサーチ・オピニオン、または見解に関する アンリツによる解釈であり、ガーートナーによる 本レポートのレビューは行われておりません。ガーートナーの発行物は、その発行時点における見解であり、本プレゼンテーション発行時点のものではありません。ガーートナーの発行物で述べられた意見は、事実を表現したものではなく、事前の予告なしに変更されることがあります。

Ⅱ-3-2. IoT向けスマートデバイスの研究開発ソリューション

B-1

IoTを実現する無線方式



セルラーIoT向け研究開発用ソリューション

MT8821C
ラジオコミュニケーション
アナライザ



チップセット



SiP
(System in Package)

MD8430A
シグナリングテスト



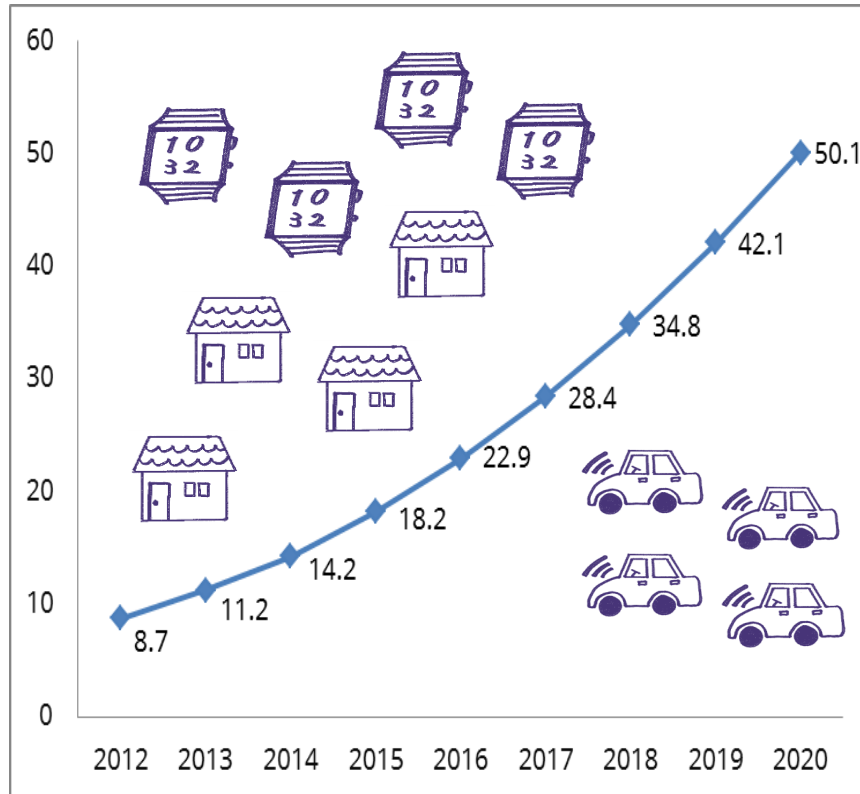
主な競合

ローデ & シュワルツ
キーサイト

Ⅱ-3-3. IoT向けスマートデバイスの製造ソリューション

B -2

[Billions] The Number of IoT Devices



*Source : World Economic Forum

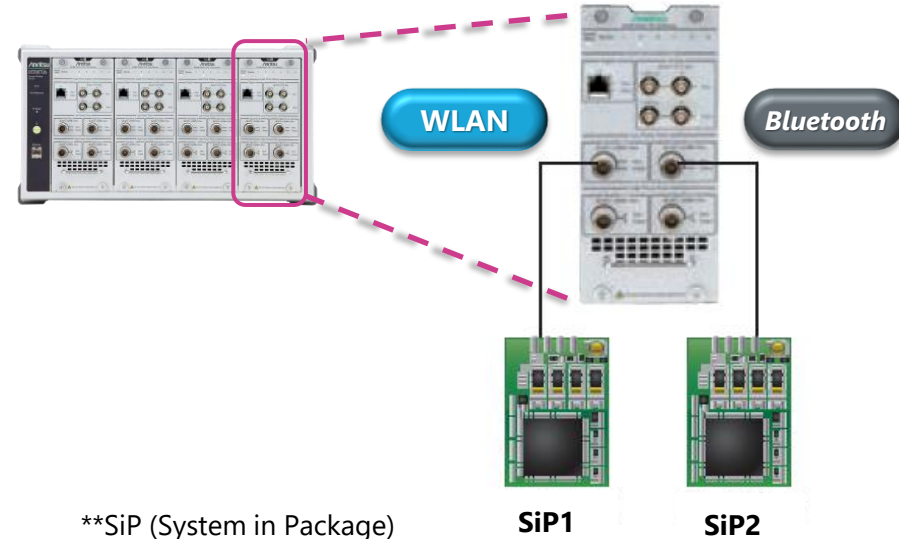
IoT向けコネクティビティ&モジュール市場の成長

Bluetooth / WLAN向け

MT8862C ワイヤレスコネクティビティテストセット



MT8870A ユニバーサルワイヤレステストセット



**SiP (System in Package)

主な競合

テラデザイン、ナショナル・インスツルメンツ、ローデ&シュワルツ、キーサイト

Ⅱ-3-4. ローカル5G

日本ではローカル5Gとして新たに導入され、海外ではプライベートLTEの発展形として期待される。

C -1



AGV: Automatic (Automated) guided Vehicle

引用：ローカル5G検討作業班 報告書骨子案 総務省 総合通信基盤局電波部 移動通信課

Ⅱ-3-5. ローカル5G こんなところでアンリツが活躍

リモート操作の遅延測定

ロボットのリモート操作の為に遅延時間を測定



MT1000A ネットワークマスタープロ

基地局性能試験や通信エリア測定

通信エリアの電界強度測定



ML8780A/81A エリアテスタ

基地局性能試験



電波干渉の測定

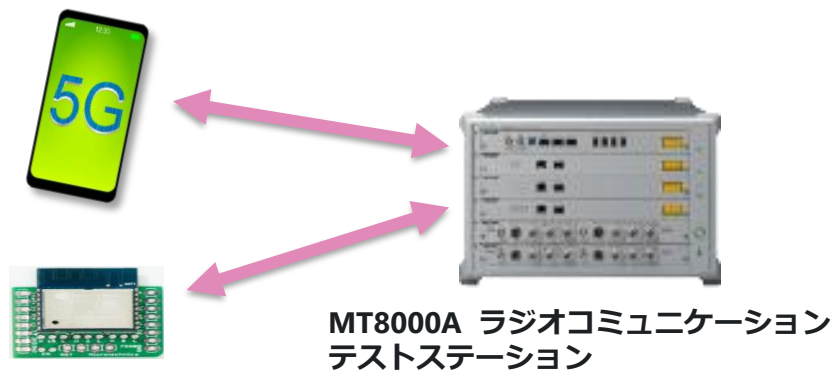
ローカル5Gエリアの重複による電波干渉を測定



MS2090A フィールドマスタープロ

端末やセンサーモジュールの性能試験

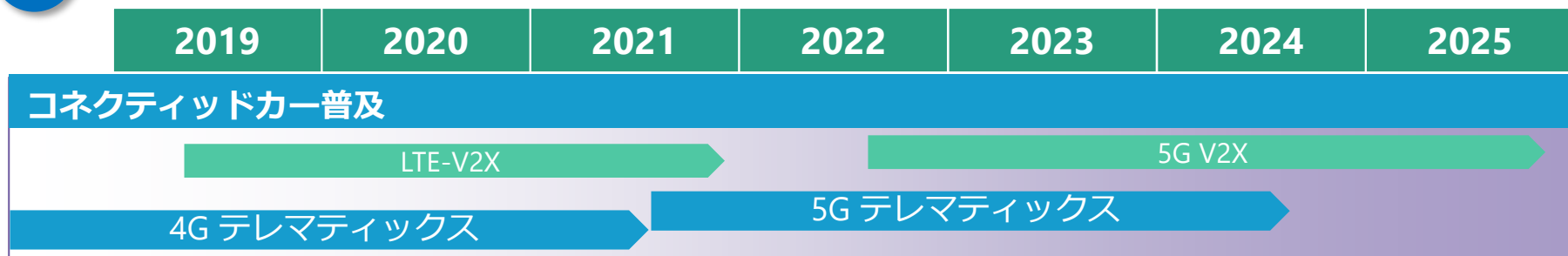
端末やセンサーモジュールの無線特性、プロトコルを試験



MT8000A ラジオコミュニケーション
テストステーション

Ⅱ - 3 - 6 . 自動車市場における新技術の導入とアンリツの取り組み

C - 2



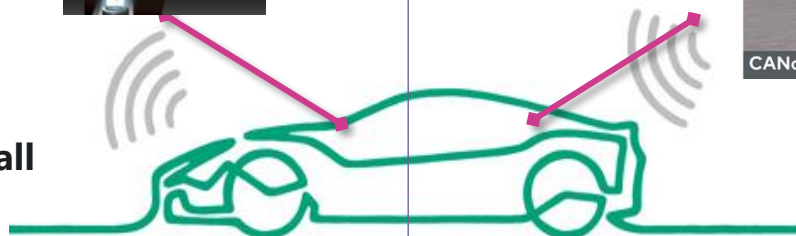
- eCall搭載義務化
- V2X実証実験の活発化
- サイバーセキュリティ義務化



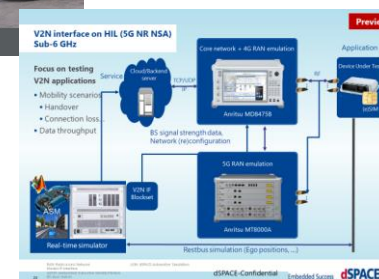
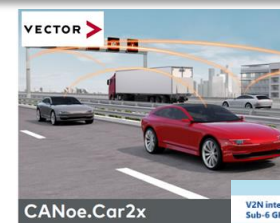
コネクティッドカー/ V2X ※ 車車間・路車間通信



- UNR-144 (eCall), NG eCall
- Cyber Security
- V2X (802.11p, C-V2X)



自動運転に向けたHILSとの連携



Ⅱ-3-7. 自動車市場の業界構造

安全, 緊急, 快適, インフォテインメント, 診断

カーベンダー

自動運転車

ADAS

(Advanced Driver Assistance System)

Telematics

(Telecommunication + Informatics)

ITS C-ITS

(Intelligent Transport Systems)

ダッシュボード ベンダー

送受信モジュール

(セルラー + V2X +
コネクティビティ +
アンテナ 等)

レーダーモジュール

アンテナ

通信衛星受信機

チューナー

モジュール ベンダー

セルラー

モジュール,

コネクティビティ
モジュール,

V2X モジュール,

レーダー,

アンテナ,

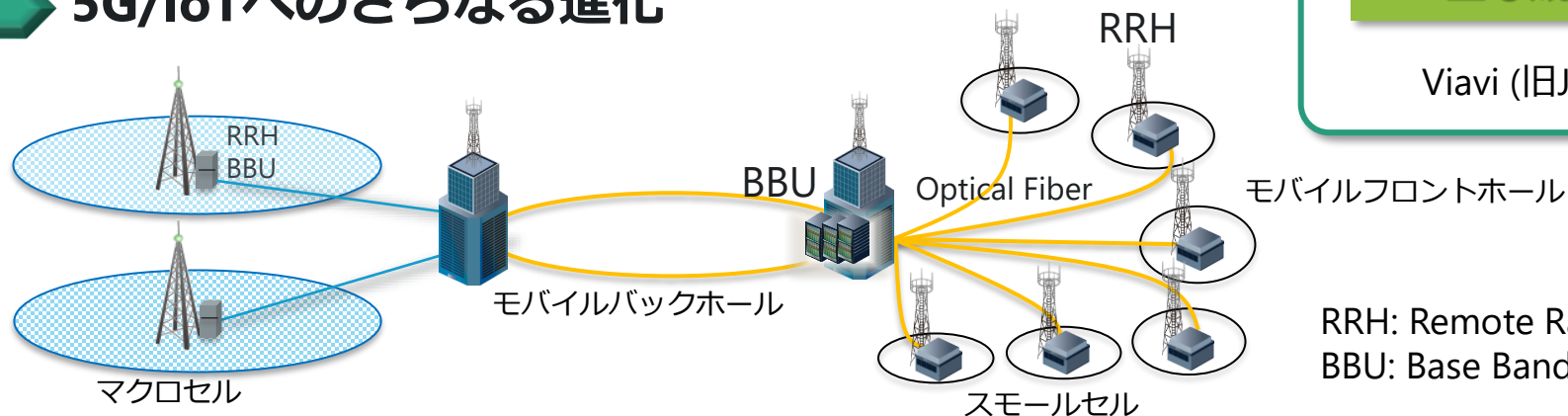
コネクター,
ケーブル 等

チップセット ベンダー

通信用半導体

Ⅱ - 4 . Network Reshaping Test Solutions

➡ 5G/IoTへのさらなる進化



主な競合

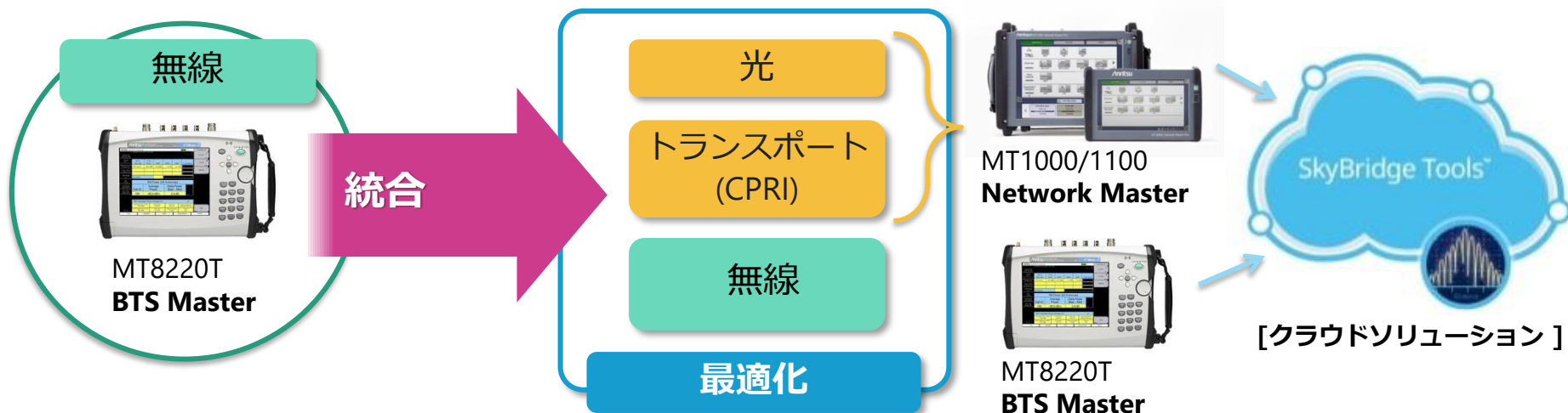
Viavi (旧JDSU)

現行LTE ネットワーク



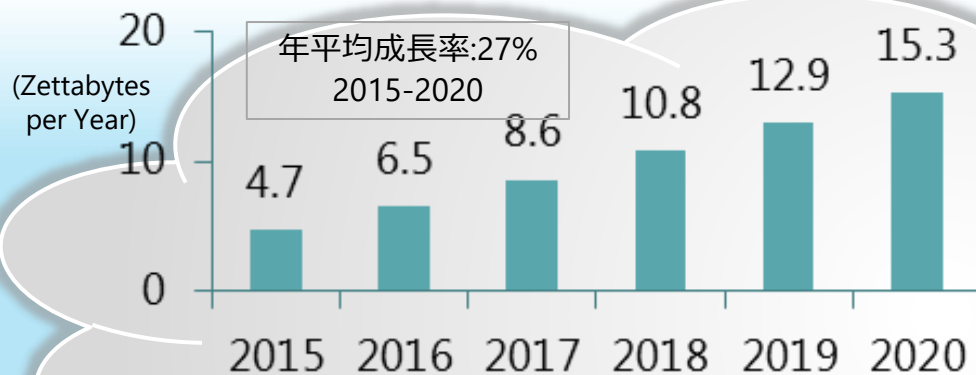
5G ネットワーク

➡ ネットワークテストソリューションの未来を変える



Ⅱ-4-1. クラウドサービスの拡大を支えるテストソリューション

急速に伸びるデータトラフィック



グローバルデータセンターのトラフィック増加

出展: シスコ グローバルインデックス2015-2020



データセンター

- データセンター増設
- 高速化
- 大容量化
- 光化



DCI (データセンター相互接続)
高速通信

10GE/40GE→100GE/400GE

データセンター



主な競合

キーサイト
Viavi (旧JDSU)

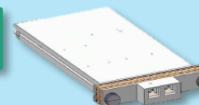
研究開発



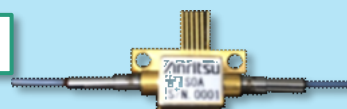
データセンター装置ベンダー
(ルーター、スイッチ等)



光モジュールベンダー



光デバイスベンダー



製造、設置、保守



Ⅲ. PQA事業

Ⅲ- 1 . PQA 事業 (Products Quality Assurance)

食品生産工程の一般例



スナック菓子 ソーセージ



肉

自動電子計量機



品質管理・制御システム

金属検出機

重量選別機

ガラス、
プラスチック片など

硬質ゴム
(パッキンなど)

石片

骨、貝殻など

X線検査機

- ・ 異物の混入
- ・ 内容量のバラつき
- ・ 割れ・欠け
- ・ 包装（封止）不良
- ・ 印字ミス・カスレ

包装

質量検査

異物検査

包装検査

品質検査

箱詰め・包装

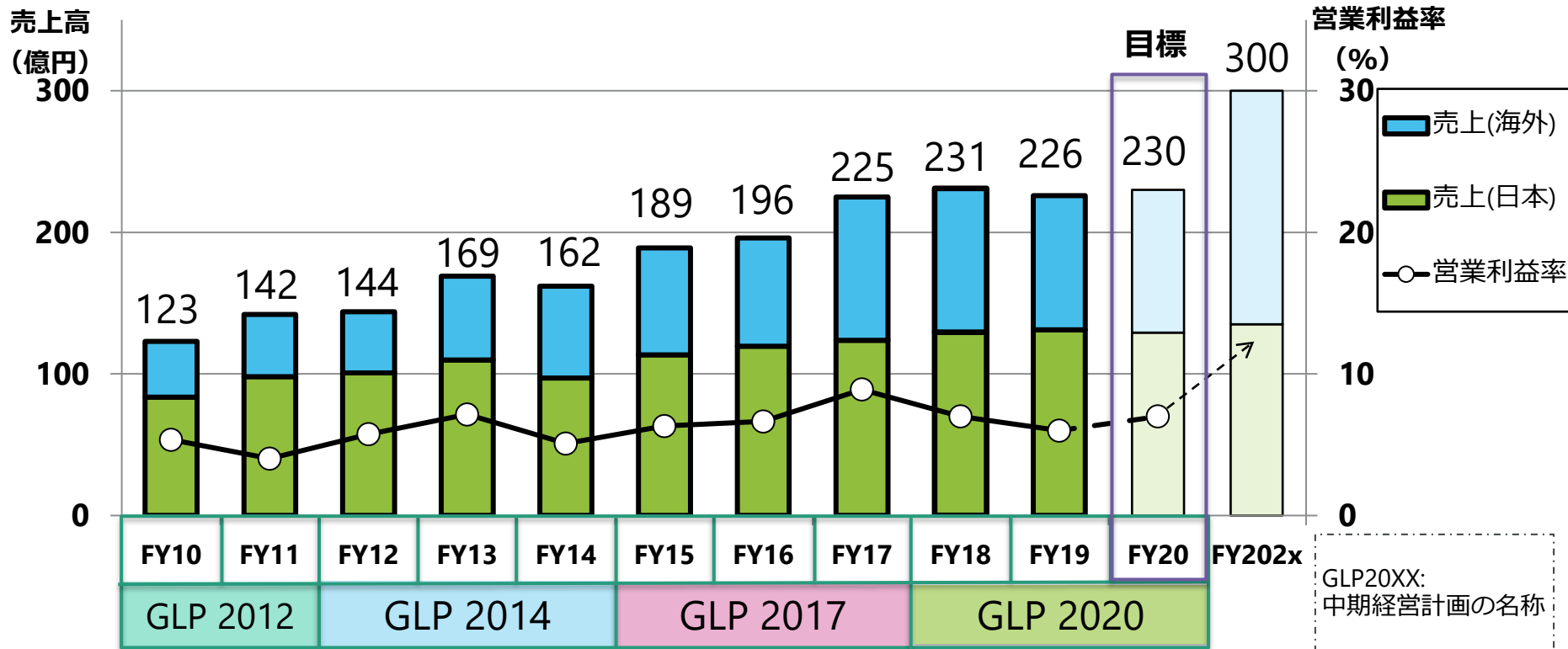
箱詰め

選別機

主な顧客

モンデリーズ、ネスレ、クラフトハイツ、日本ハムグループ、グリコグループ、ニッスイグループなど

Ⅲ- 2 . 成長するPQA事業



市場	主な取り組み
北米・EMEA・アジア	X線検査器をキー・ソリューションとした市場開拓
日本	最先端ニーズにこたえる高付加価値の品質保証ソリューションでシェア向上

主な競合

メトラートレド、イシダ、マレル

(注) FY2020の計画：2021年1月28日に発表した公表値です。

Ⅲ- 3 . PQA事業：PQA市場の現状と見通し

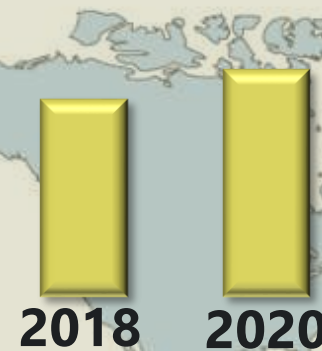
EMEA

小売産業の品質保証厳格化



米州

X線検査需要の拡大



EMEA
43%

米州
28%

日本
15%

アジア
14%

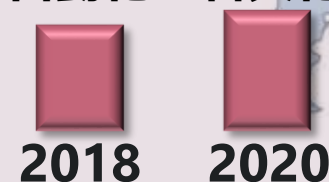
アジア

加工食品の需要拡大
人件費の高騰



日本

人手不足による
生産ラインの
自動化・省人化

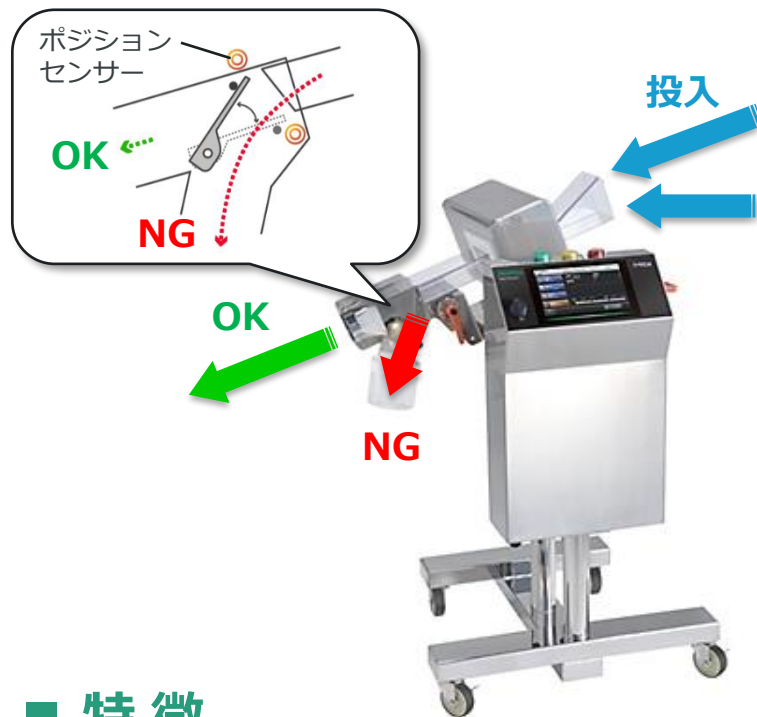


2020年度世界市場規模
2,200億円
(当社推定)
平均成長率 4 %見込み

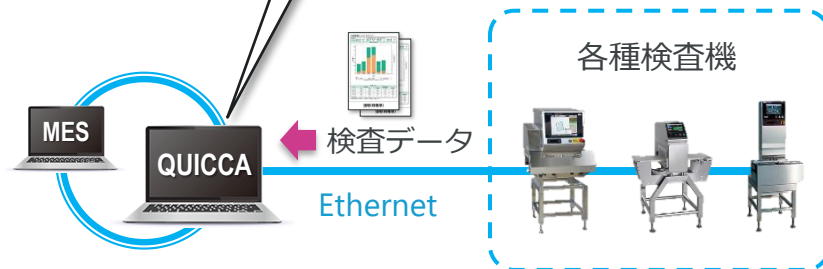
Ⅲ-4. 医薬品市場向けソリューション

医薬品市場向け金属検出器

KDS1004PSW 錠剤・カプセル用金属検出機



Quicca Pharma
医薬品向け
総合品質管理/制御システム



■ 特徴

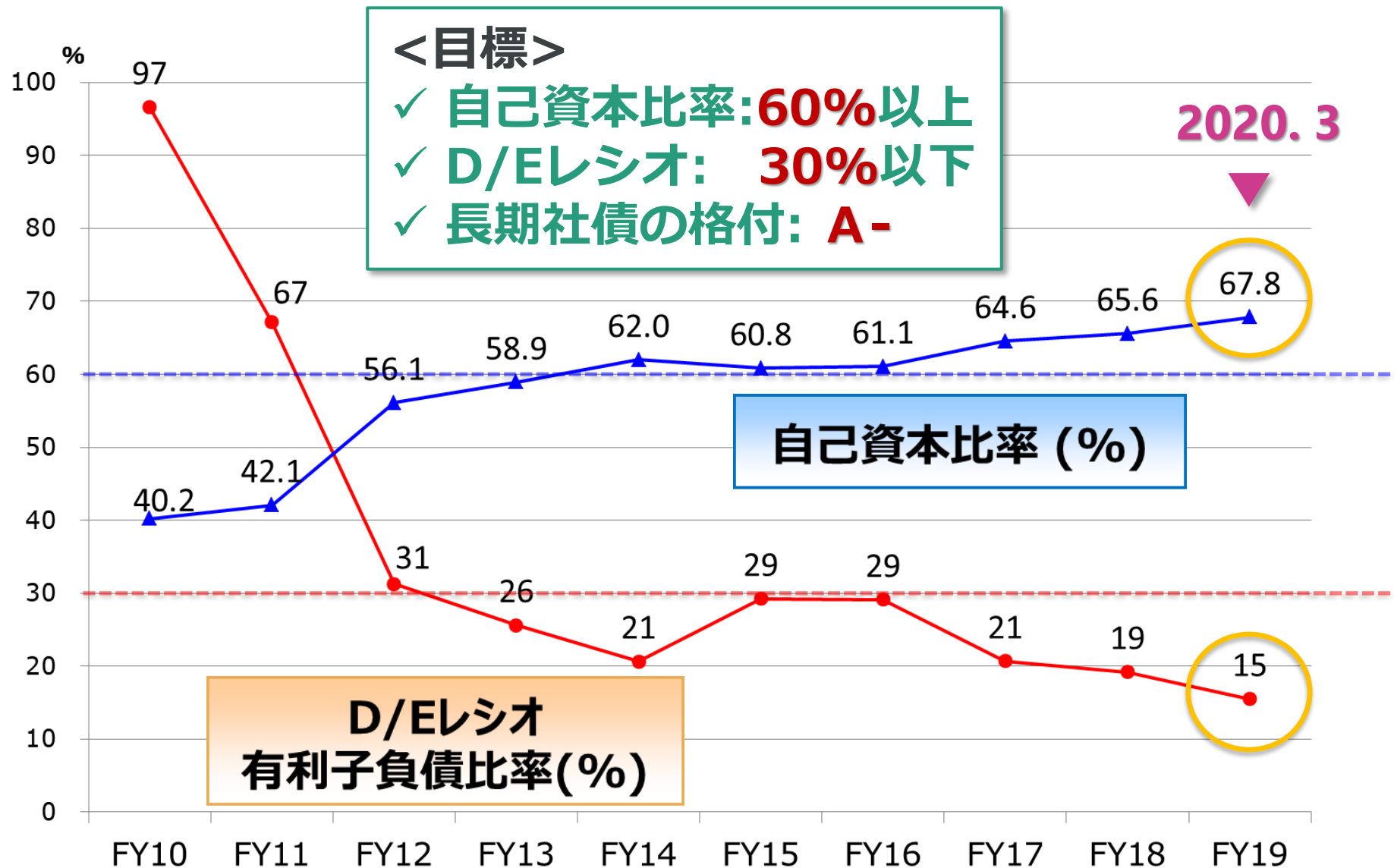
錠剤、カプセル内の金属異物を高感度に検出し、OK/NGを判定

- ・ 0.1mm以上の金属片を検出可能

■ 対象顧客

- ・ 製薬会社

IV- 1 . 財務戦略



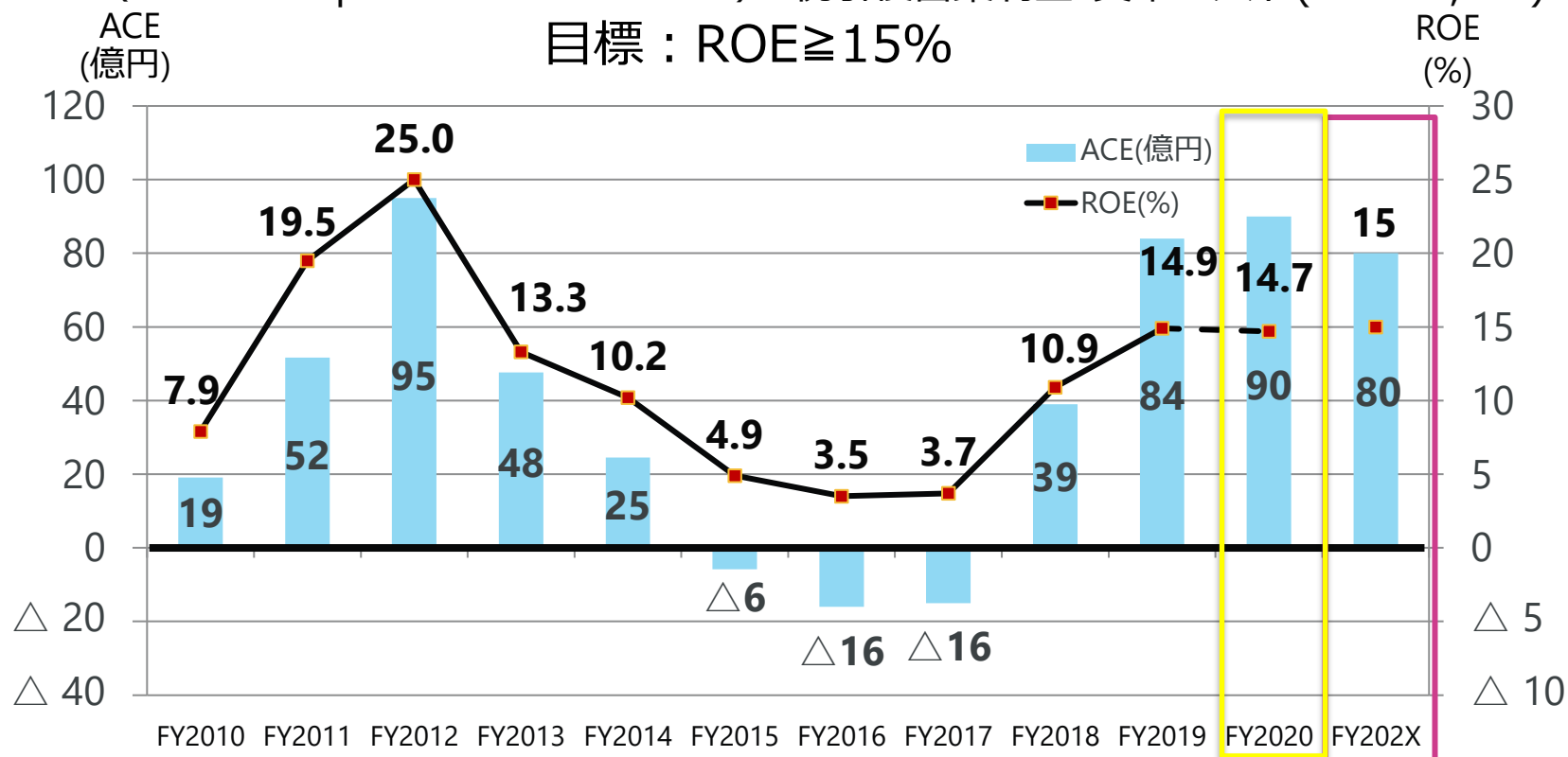
IV- 1 - 1 . GLP2020 : 財務戦略

基本方針

**株主資本コスト7%を上回るリターンを生み出す
成長投資（含むM&A）と資本効率の改善で、
企業価値KPI(ACE & ROE)を向上する**

* ACE (Anritsu Capital-cost Evaluation) : 税引後営業利益-資本コスト(WACC ,5%)

目標 : ROE $\geq$ 15%



IV- 2 . 株主還元

利益処分に関する基本方針

連結業績（当期利益）に応じた利益処分を行うことを基本方針とする

1. 連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率（DOE）を上げることを基本とする

2. 連結配当性向30%以上を目標とする

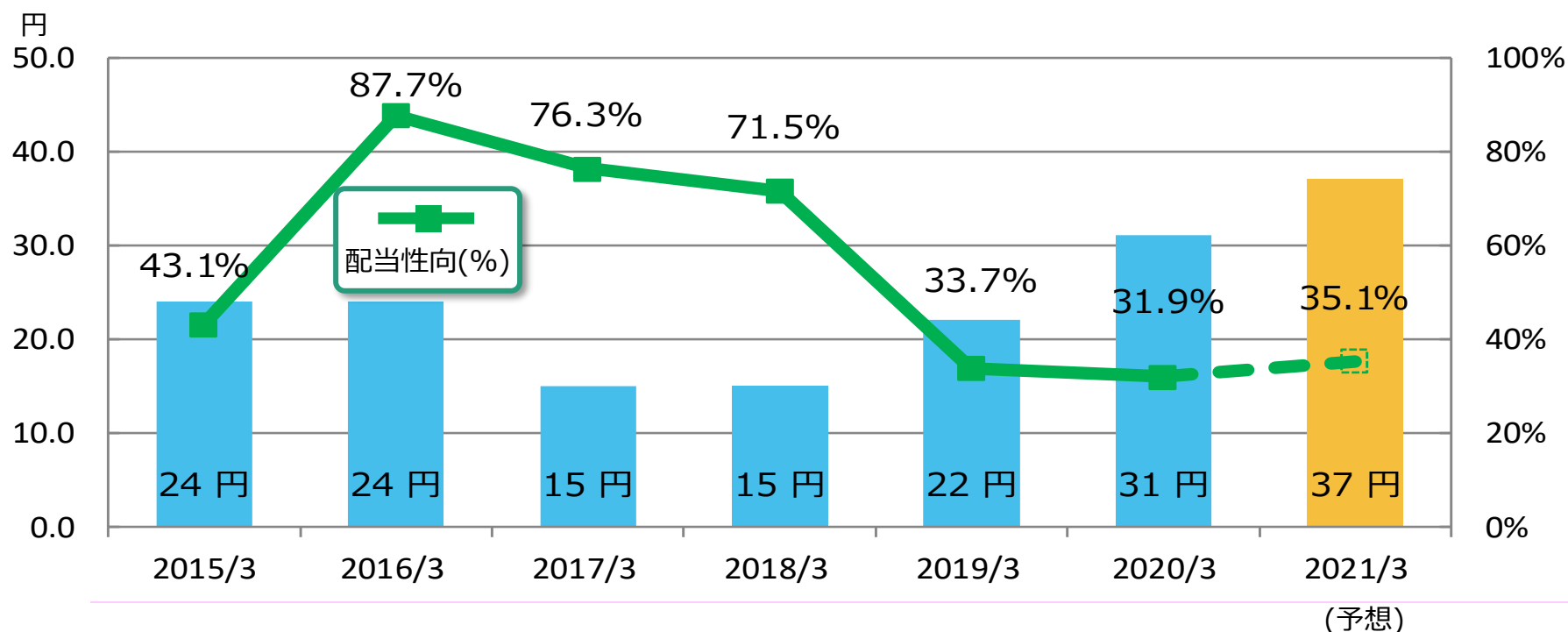
3. 総還元性向を勘案した株主還元施策も機動的に行っていく

IV-2-1. 配当予想について

年間配当
増配

31円 → 37円
(中間配当15.5円、期末配当21.5円)

	年間配当	当期利益	配当性向	DOE	ROE
2021年3月期 (予想)	37円	145億円	35.1%	5.2%	14.7%
2020年3月期 (実績)	31円	134億円	31.9%	4.7%	14.9%



IV-3. 企業理念とサステナビリティ方針

経営理念

誠と和と意欲をもって、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する

経営ビジョン

衆知を集めたイノベーションで社会のサステナビリティに貢献し“利益ある持続的成長”を実現する

サステナビリティ方針

私たちは「誠と和と意欲」をもってグローバル社会のサステナビリティに貢献することを通じて、企業価値の向上を目指します。

1. 長期ビジョンのもと事業活動を通じて、安全・安心で快適な社会構築に貢献します。
2. 誠実な企業活動を通じて、グローバル経済社会との調和を実践します。
3. 人と自然が共存する環境経営を推進して地球環境保護に貢献します。
4. すべてのステークホルダーとのコミュニケーションを推進して、強固なパートナーシップを構築します。

IV-3-1. サステナビリティ目標 (SDGs)

事業を通じて解決する社会課題

アンリッグループ全体

安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献する



計測事業

安全・安心であらゆるものがつながる強靱なネットワークインフラを整備し、持続可能な社会の建設に貢献する



PQA事業

食品や医薬品の品質保証の高度化を通じて、誰もが安全で安心して暮らせる社会、食品ロスの少ない持続可能な社会の実現に貢献する



社会の要請に応える課題 (ESG)

地球環境保護の推進

持続可能な消費と生産の企業活動で持続可能な社会づくりに貢献する

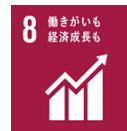
- ・再生可能エネルギー自家発電比率向上
- ・CO₂排出量(エネルギー消費量)/水使用量の削減
- ・高品質で環境に配慮した製品の開発/製造
- ・環境負荷を低減するSCM



グローバル経済社会との調和

多様な人財とともに、個々人が成長し働きがいのある職場づくりに貢献する

- ・人権と多様性の尊重
- ・人財育成
- ・労働安全衛生
- ・人権に配慮したSCM



ガバナンスの強化と充実

透明・公正かつ迅速・果断な意思決定とリスク管理で誠実な企業活動を行う

- ・コーポレートガバナンス
- ・コンプライアンスの定着
- ・リスクマネジメントの推進



コミュニケーションの推進による共有価値の創造

すべてのステークホルダーとともに協働して共有価値創造に貢献する

- ・ステークホルダーへの情報提供とコミュニケーション



IV-3-2. 再生可能エネルギー自家発電比率向上(PGRE 30)の進捗状況

PGRE 30：再生可能エネルギーの一つである太陽光発電の導入を進め、
2030年頃までに太陽光自家発電比率を約1%から30%程度まで高める
(アンリツ独自の取組)

2020年度：米国カリフォルニア州工場の太陽光発電設備が10月から稼働

2021年度：郡山第二工場の太陽光発電設備増設の着手を計画中

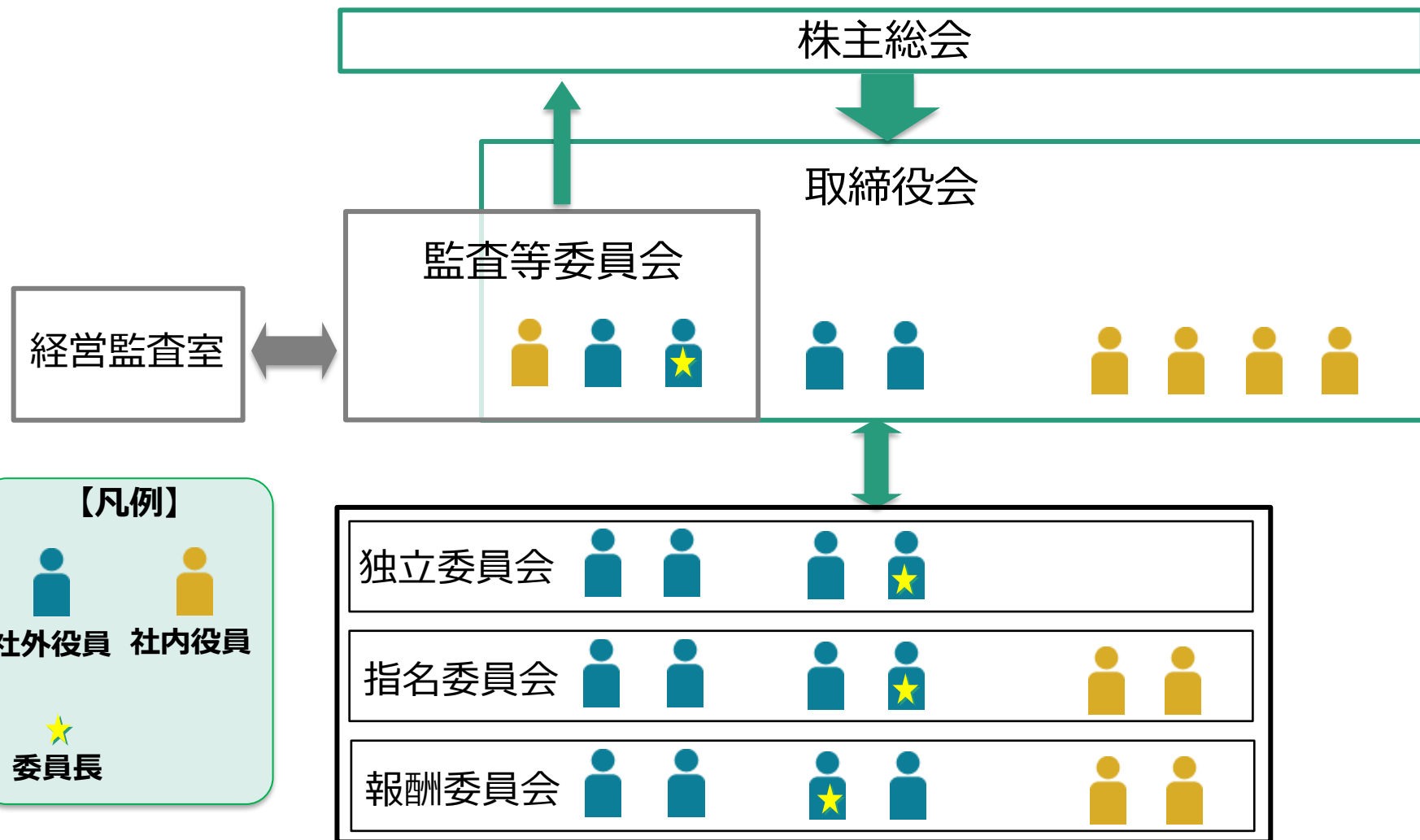


自家発電比率	FY2018	FY2020推	FY2021推
厚木	0.2%	→ 0.7%	→ 0.7%
郡山	4.4%	→ 4.4%	→ 4.4%
米国	0.0%	→ 9.7%	→ 23.3%
計	0.8%	→ 4.3%	→ 7~8%

※アンリツ気候変動対策活動 PGRE 30はPrivate Generation of Renewable Energy（再エネ自家発電）の略であり、「30」は達成時期の2030年頃と自家発電比率目標値の30%程度を意味します。

IV-4. コーポレートガバナンス体制

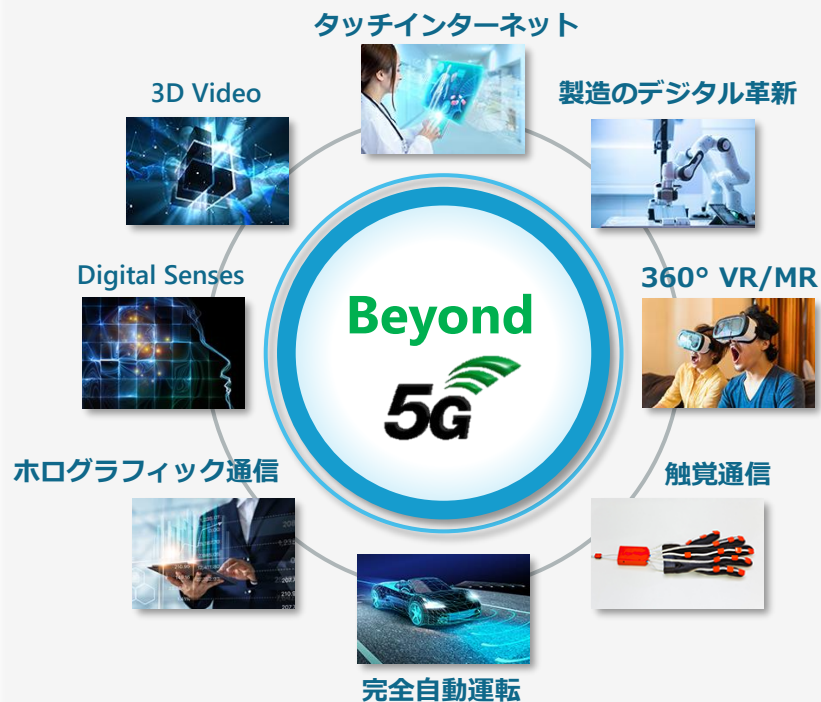
-競争力を高め、継続的に企業価値を向上させていくために-



IV-5. 先端技術研究所の紹介

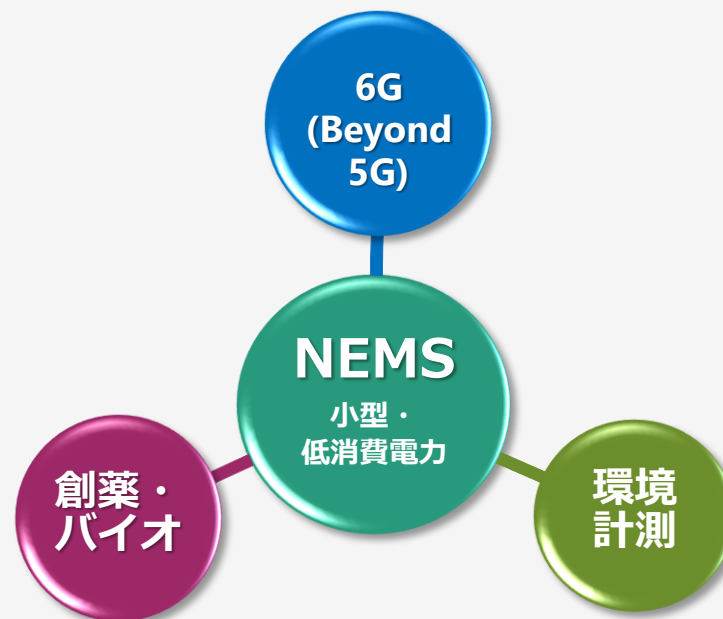
6G(Beyond 5G)

- 100GHz超コンポーネント開発
- 電波干渉のモニタリング技術



次世代技術の獲得

- 超高感度センサへの期待の高い
"NEMS※"の実現



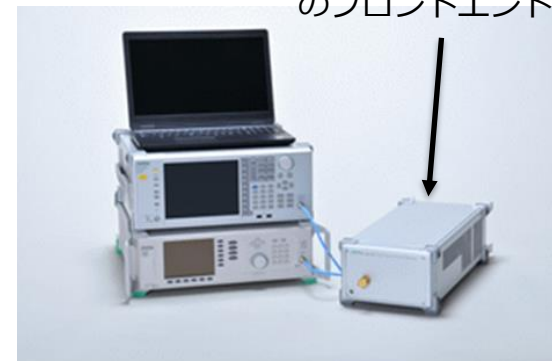
※NEMS（ネムス、Nano Electro Mechanical Systems）は、半導体加工技術をベースとするマイクロマシン（MEMS：メムス、Micro Electro Mechanical Systems）をさらに小型化した、nmオーダーの機械構造を持つデバイス

IV-5-1. 6Gに向けたアンリツの取組

■ 高周波の測定技術の探求

300GHz帯のスペクトラム測定技術の獲得
ミリ波・テラヘルツ波帯の無線信号の品質を測定

300GHzプリセレクタ内蔵
のフロントエンド部

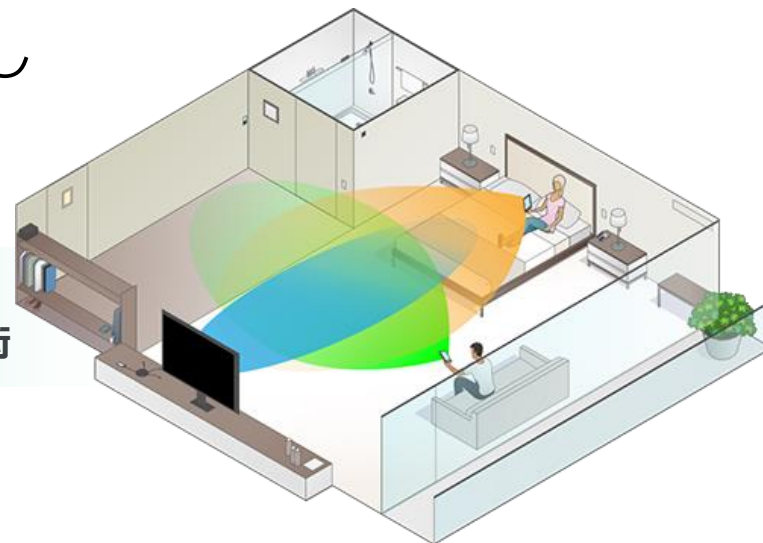


300GHzスペクトラムアナライザ(試作機)

■ 電波干渉の測定技術の開発

複数の端末から出る電波を分離・可視化し
測定する技術の獲得
京都大学、NICTとの共同プロジェクト

開発予定の
電波の可視化技術



■ 次世代フォーラムへの参画

- IOWN Global Forum
- O-RAN ALLIANCE



IOWN
GLOBAL FORUM



V. 2021年3月期第3四半期 連結決算概要

2021年1月28日公表

V-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比増収、増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	826	798	△ 28	△ 3%
売上高	764	766	2	0%
営業利益	113	141	28	24%
税引前利益	112	139	27	24%
当期利益	83	105	22	26%
当期包括利益	79	105	26	32%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入 (前年同期比増減額を除く)

V-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

➡ T&M：5G商用化、データセンター需要が順調で増収増益

PQA：新型コロナウイルスの影響で減収も増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	542	544	2	0%
	営業利益	99	125	26	26%
PQA	売上高	159	153	△ 6	△ 3%
	営業利益	7	10	3	45%
その他	売上高	64	68	4	6%
	営業利益	13	11	△ 2	△ 15%
調整額	営業利益	△ 6	△ 6	0	-
合計	売上高	764	766	2	0%
	営業利益	113	141	28	24%

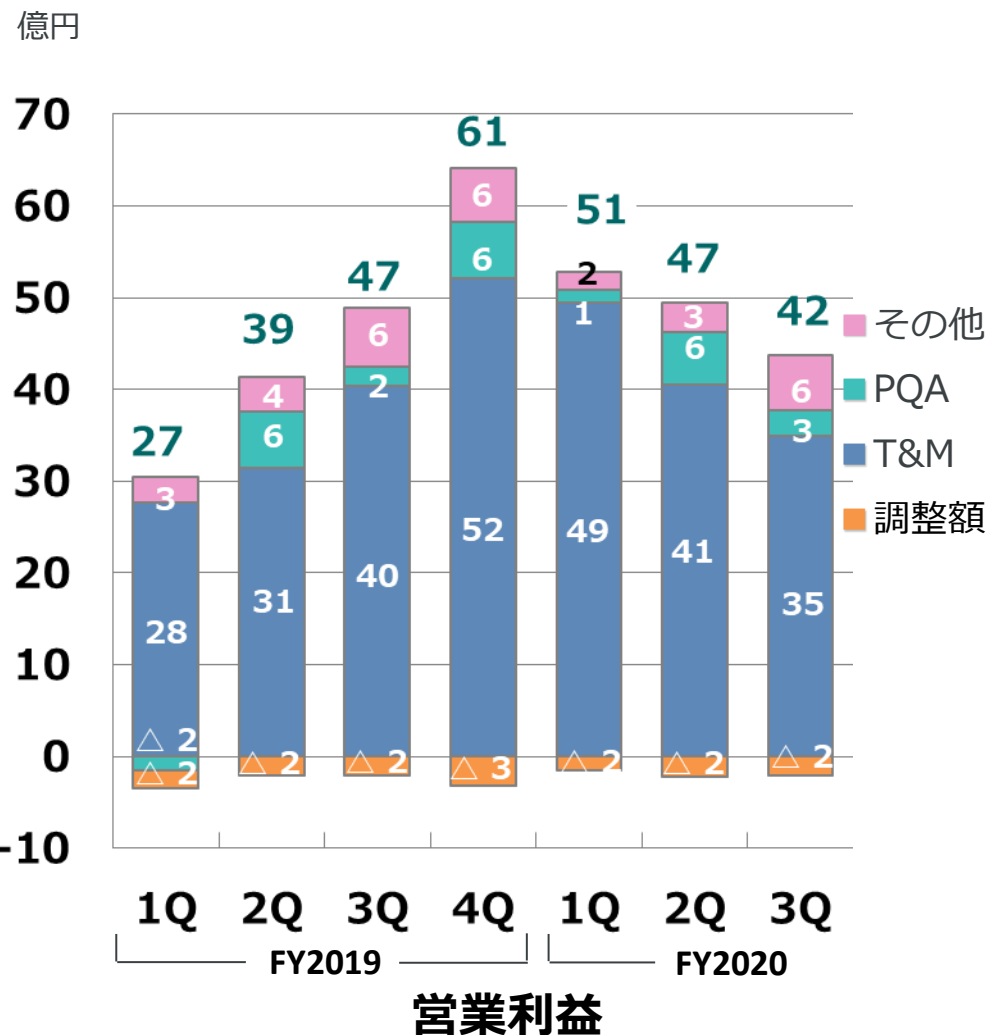
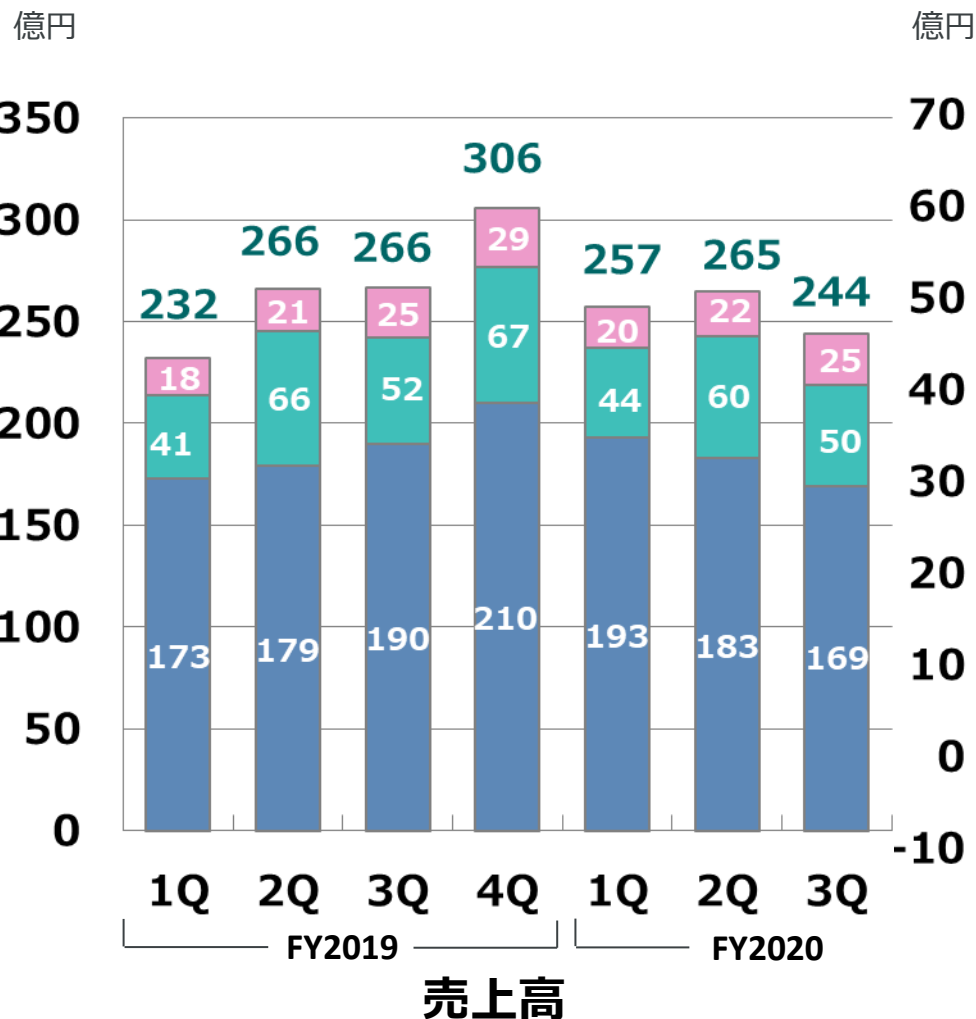
(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

V-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

➡ 3Q(10-12月)営業利益率：連結17%, T&M21%, PQA5%



(注) 値はそれぞれで四捨五入

V-4. 事業別営業概況

セグメント 2021年3月期第3四半期（4月-12月）の状況

 **T&M**：5G商用化スケジュールおよび
データセンター高速化が順調に進展

モバイル	5G開発の需要が順調に推移
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が拡大
アジア他・日本	5G商用化に向けた投資拡大
米州	5Gサービスの今後のエリア拡充に注視

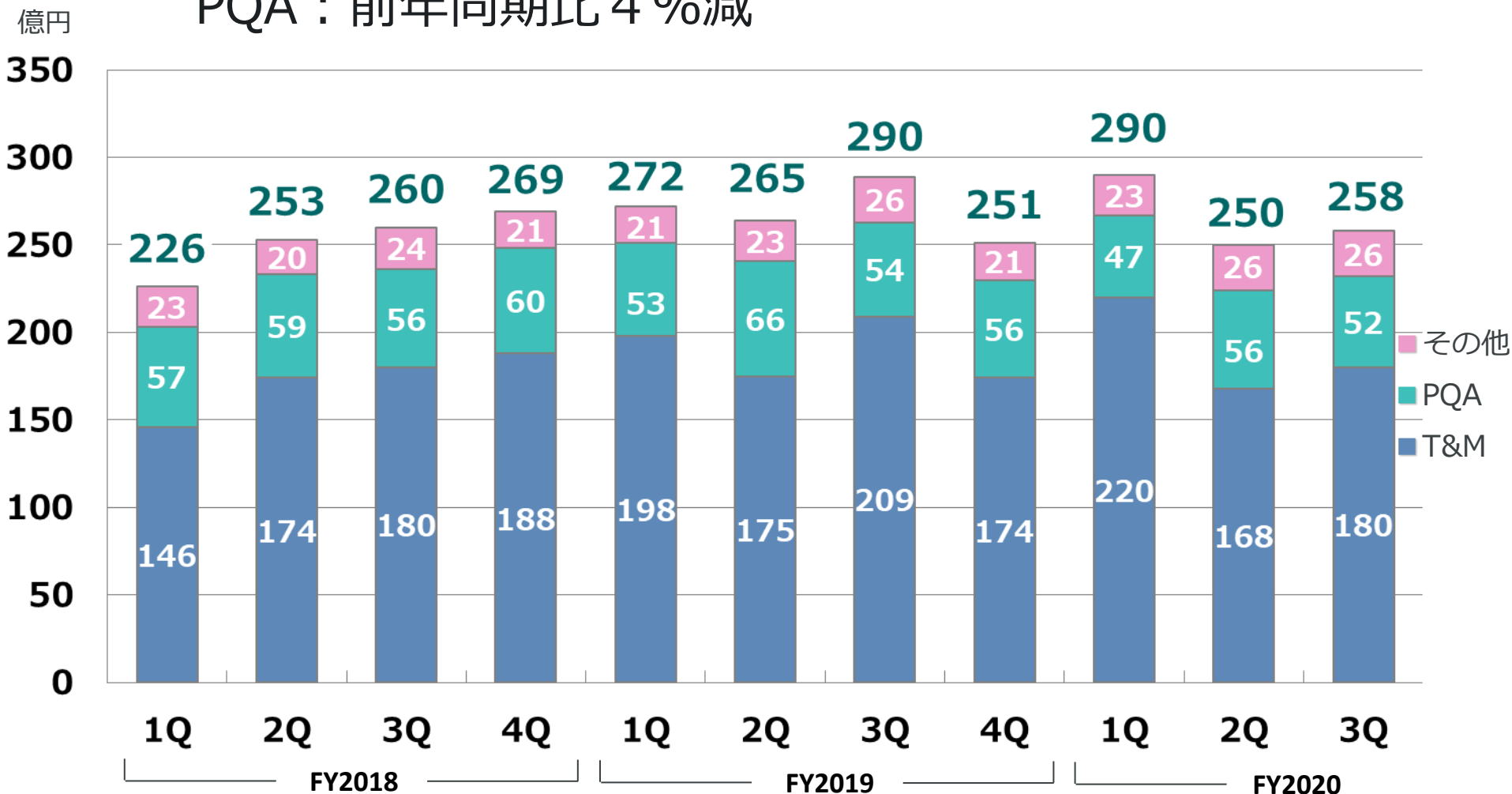
 **PQA**：食品市場では新型コロナウイルス感染症拡大に伴う先行きの不透明感から一部の顧客が設備投資に慎重な姿勢

T&M：Test & Measurement PQA：Products Quality Assurance

V-5. 受注高推移

➡ T&M：前年同期比14%減、前四半期比7%増

PQA：前年同期比4%減

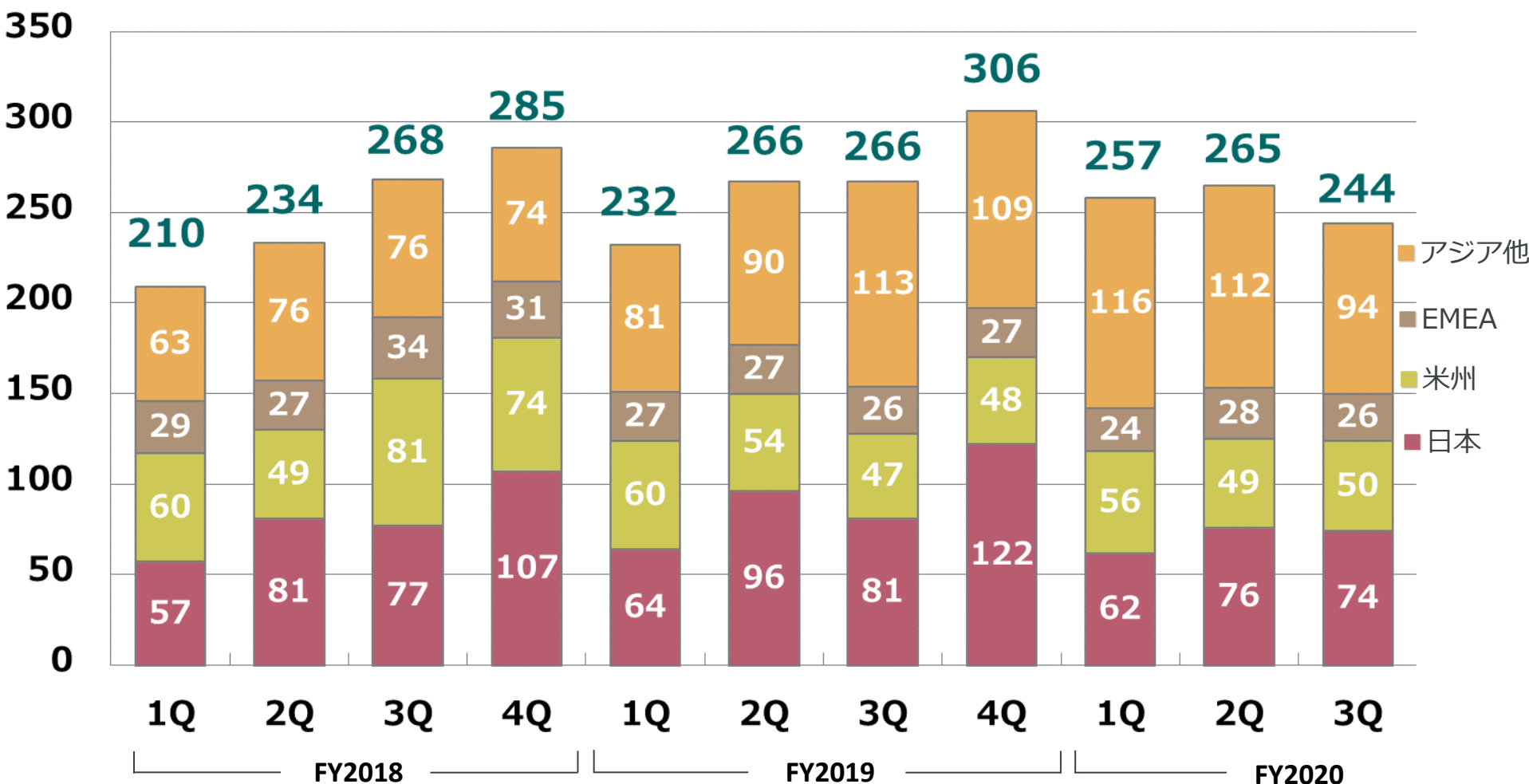


(注) 値はそれぞれで四捨五入

V-6. 地域別売上高推移

▶ アジアで5G商用化、データセンター関連の需要は順調

億円



(注) 値はそれぞれで四捨五入

V-7. キャッシュフロー

➡ 営業CFマージン率19.0%

内訳

(単位：億円)

FY2020 3Q (累計)

- ①営業CF： 146億円
- ②投資CF： △ 38億円
- ③財務CF： △137億円

フリーキャッシュフロー

(① + ②)： 108億円

現金同等物期末残高

450億円

有利子負債高

64億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

↓その他 5*			(単位：億円)	
売上債権 41				
減価償却 37				
税引前利益 139				
棚卸資産 △17			設備投資 △21	社債償還△80
税金 △49			その他 △17	
仕入債務 △11			配当金 △49	
↑			↑その他 △8	
営業CF 146			投資CF △38	財務CF△137

*その他の主な内容：前受金、預り金など

V-8. 2021年3月期 通期業績予想（連結）

➡ 連結業績予想 営業利益を上方修正

（単位：億円）

			2020/3期	2021/3期			
			前期実績	通期予想		前期比	
				4/27発表	1/28発表	増減額	増減率(%)
売上高			1,070	1,100	1,100	30	3%
営業利益			174	175	190	16	9%
税引前利益			172	175	190	18	11%
当期利益			134	135	145	11	8%
T&M	売上高		752	770	780	28	4%
	営業利益		151	155	170	19	12%
PQA	売上高		226	240	230	4	2%
	営業利益		13	18	15	2	17%
その他	売上高		93	90	90	△ 3	△ 3%
	営業利益		19	12	15	△ 4	△ 21%
調整額	営業利益		△ 9	△ 10	△ 10	△ 1	-

（参考）FY19 為替レート : 1米ドル109円、1ユーロ=121円
FY20 想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=120円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

